

全日本ハンドボール
マスターズ
記録誌

第12回花巻大会を終えて
今後更なる発展を祈念して

発行平成16年12月

はじめに

(財)日本ハンドボール協会常務理事

普及指導担当 角 紘昭

これまで、「ハンドボールの普及活動」は、特に若い世代にハンドボールを広め、その広い裾野から有望な人材を「見つけ出し、育てる」ことによって、トップチームの強化を図ろうということが中心で、その他の活動として、ビーチハンドボールや障害のある人たちも参加できるための開発や企画を援助してきました。

しかし、スポーツライフの充実やスポーツ文化の普及という点からは、ハンドボールにおいても、

- ・ U-19, 12 の世代の子供たちにとっては、ハンドボールの持っている運動要素は体づくりや思考力を伸ばすのに適していること
- ・ オーバーエイジの人たちにとっては、生活を楽しむためのスポーツ（生涯スポーツ）として楽しむことが出来ること

等々を立証し、これまでよりもさらに幅広く普及活動を進める必要があります。

この全日本ハンドボールマスターズ大会は、12年間継続、努力してきた結果、全国各地からの参加も増え、41 チーム、500 名を越えるまでのイベントにまで成長してきました。この大会のメイン行事の一つの懇親会の中で、多くのゴールドパンツ（55 歳以上のプレーヤーのみが着用できる）プレーヤーは「また、明日から、来年出場するための体づくりを始めます。」と互いに誓い合う姿はとてもほほえましく、印象的でした。この言葉が、生涯スポーツとしてのハンドボールを言い表しているといえます。

ここに、生涯スポーツの観点に立った大会運営の具体的な記録と、ハンドボールをスポーツ文化にまでさせるための将来展望等々をまとめておくことは、(財)日本ハンドボール協会が進めている普及活動の大切な柱の一つと考えています。そして、このような活動はハンドボールのさらなる普及と強化に繋がると確信しています。

目 次

まえがき

(財)日本ハンドボール協会常務理事
普及部本部長 角 紘昭 氏

第Ⅰ章 全日本ハンドボールマスターズ大会発生の経緯

- 1、大会の発生
- 2、参加資格の検討
- 3、親と子のふれあいタイム誕生
- 4、その他……第1回大会開催にあたって克服すべき3条件
 - 1) 男女とも複数の参加チームの確保
 - 2) 大会会場及び宿泊施設の確保
 - 3) 食堂と150人分の食事の確保

第Ⅱ章 全日本マスターズ大会のあゆみ

- 1、11年間に亘る大会規模の変遷
 - 1) 大会別参加状況
 - ① 立ち上げ及び我慢期
 - ② 萌芽期
 - ③ 隆盛期
 - 2) 全国ブロックから見た大会参加状況
- 2、大会規模の増大とコンセプト作り
 - 1) 自主独立大会を目指して
 - 2) 全員参加で楽しい懇親会
 - 3) 高齢者にやさしい大会を目指して
 - 4) 試合方式変更で参加目的の明確化
 - 5) 優秀賞と出場回数10回チームの表彰
 - 6) 大会別参加記念品と亀さんのロゴマーク
 - i 大会別記念品
 - ii ロゴマークの誕生秘話
 - 7) テーピングサービス
- 3、大会をふり返って
 - 1) 平成11年度第7回下関大会
 - 2) 平成12年度第8回松山大会
 - 3) 平成15年度第11回宮崎大会
 - 4) 平成16年度第12回花巻大会

第Ⅲ章 11人制ハンドボールの復活を目指して

- 1、復活の経緯
- 2、第1回11人制ハンドボール大会のゲームに臨んで
- 3、11人制大会の今後

第IV章 全日本マスターズ大会の今後の行方

1、マスターズ大会は何チームまで受け入れ可能か？

1) 大会時期と大会期間

① 現行方式の継続

② ハッピーマンデー方式

A 交流型、順位決定型ともに土・日・月を利用する

B 交流型、順位決定型ともに1日延長する

C 交流型、順位決定型を1日ずらして開催する

2) 設置コート数

3) 試合時間と試合間のインターバル

4) 大会期間中の1チームのゲーム数

5) コート1面で実施できるゲーム数

① 15分-5分-15分方式

② 10分-5分-10分方式

2、マスターズ大会の規模拡大による大会の発展と分化

1) 第12回大会までの延べ参加チーム

2) これまでは不参加であるが、大会事務局に大会について問い合わせ等があった県

3) 不参加の県

4) 今後の参加チーム数の予想

5) 大会発展と分化

① 全日本大会を隔年に開催する方式

a, 東日本、西日本方式

b, ブロック大会方式

② 交流型と順位決定型の分離開催と国際大会への発展

3、マスターズ世代の組織化

1) 新しい登録制度の確立

2) 全国規模での組織化は可能か？

4、マスターズ世代の日本のハンドボール界への貢献

1) 底辺拡大の為の協力

2) 日本のハンドボール界への周辺からの応援

参考資料

表-1 表-2 表-3 表-4-1 表-4-2

図-1 図-2 図-3

あとがき

付録資料

アンケート調査結果報告

第 I 章 全日本マスターズ大会発生の経緯

1、大会の発生

平成6年に愛知県で開かれる“わかしゃち国体”のリハーサル大会として、平成5年8月9日から13日の5日間にわたり、第36回全日本教職員ハンドボール選手権大会が豊田市で開催されました。

愛知県は、登録チーム数、実力ともにハンドボール界においては日本を代表する県であると言っても過言ではありません。特に高等学校、中学校、小学校のレベルでは全国的に見て群を抜いて普及しています。また、その普及に貢献して参りました教職員のハンドボールチームも、毎年開催される全日本教職員大会に男女合わせて5～7チームが出場してきました。このチーム数も小・中・高レベルと同様、他地区と比較して図抜けた数字であります。

愛知県教職員チームの最古参 ATF は、平均年齢45歳以上になっても平成4年の高松大会まで、毎年全日本教職員大会に参加してきましたが、このようなことは珍しい例でありました。多くの教職員チームは、このチャンピオンシップ大会に出場し続けることには、体力的な面や時間的な面で限界があり、この大会から引退していました。ハンドボールを楽しむ場から遠ざかってしまった数多くのOB、OGの皆さんに、いかにして全国大会の場に帰って来てもらうかが、全日本教職員連盟の重要な課題でありました。言い換えますと、全日本教職員選手権大会から引退した教職員OB、OGの人達が、レクレーションスポーツとしてのマスターズ大会において再度輝くという「マスターズ構想」の実現でありました。そしてATFという、競技スポーツに対して飽くなき挑戦を続けてきた、息の長いチームの存在する愛知県において、第1回マスターズ大会の開催は二度とないチャンスであると考えました。ATFのメンバーに相談したところ、全員から開催への支持そして協力の申し出があり、確かな力を感じ取ることができました。この力強い後押しを支えとして、当時全日本教職員連盟の会長職にあった高橋健夫先生に、全日本教職員大会と同時期、同地区開催の旨を申し出ましたところ、快く了承して下さいました。早速大会開催に向けて準備にとりかかり、そこで先ずATFと中部ドリームズの地元の2チームで実行委員会を結成することになりました。実行委員会の最初の仕事になったのは大会名を何にするかでありましたが、これは教職員大会のOB、OGを呼び戻す大会ということで、全日本教職員ハンドボールマスターズ大会と命名しました。

以上が現在行なわれております全日本ハンドボールマスターズ大会の発生の経緯です。尚、この大会名は第3回大会まで継続しましたが、参加資格については第2回大会から、教職員OB、OGに限らず年齢制限さえクリアすれば、一般チームも参加できるように全日

本教職員連盟の理事会で決定しました。

更に発生から第1回大会に向けての検討すべき事柄について、以下の第2項から第4項にわたって記述いたします。

2、参加資格の検討

第1回全日本教職員ハンドボールマスタース大会実行委員会の2番目の仕事は（これが一番重要となりましたが）、参加資格を検討することでした。2つある資格の1つは教職員大会のOB、OGであること、資格の2つ目は年齢制限であります。男性については比較的容易に決定する事ができましたが、女性についてはなかなか決定する事ができませんでした。結局男性に比較して女性は早い時期に引退する事を考慮し、男性は40歳、女性は35歳という年齢制限を設けました。

しかし、大会まで数カ月しかないこの時期に、この年齢制限の中で7人以上の選手を集め、チームを作るには特別ルールも必要であろうと言う意見があり、男子38歳以上、女子は30歳以上の選手を2名補充することができる特別ルールを作りました。この特別ルールは第9回大会まで適用されましたが、第9回大会の参加チーム数が急増したこと、次回が第10回大会という節目の年に当たるということで、この特別ルールを廃止し、男子

40歳女子35歳という本来在るべき姿に戻して第10回記念大会を行いました。

エピソード その1

第10回記念大会から参加資格の特別ルールを廃止しましたが、“さあ今年こそやっと特別ルールの年齢枠をクリアした”と張り切っていた人達から恨まれました。それもそうですよね。何年も待ってやっと念願がかなって初参加と思ったら、さらに2年間待たなければならなかったのですから。

3、親と子のふれあいタイムの誕生

——— 子供達のためのハンドボールイベントの必要性 ———

第1回大会からお父さんお母さん選手に同伴して、子供達が20人近くも大会に参加していましたが、この子供達が空いているコートを使って、足でボールを蹴って遊んでいる光景を目の当たりにして私は愕然としました。親が手を使ってハンドボールをしている横のコートで、子供達はサッカーのペナルティーキックをして遊んでいるのです。よおーし第2回大会では参加する子供達にも手を使ったボール遊びをしてもらおう。いや、子供達に手を使ったボール遊びを身体に覚え込んで家路についてほしいと強く感じました。子供達のこのなにげない光景は、親と子のイベントが誕生するきっかけとなりました。

このイベントは平成 16 年度花巻大会まで続けて実施されてきましたが、今後も継続されていくと思います。このイベントが続けられたのも、ATF 所属で、文部科学省認定日本レクリエーションコーディネーターの資格を苦勞して取得された、若松義則さんを欠くことは出来ません。100 人近いヨチヨチ歩きの 2 歳児から 10 歳以上の子供達を 1 時間集中させ、汗びっしょりになって、ハンドボールに興じる子供達の相手をする若松さんの情熱やその迫力は、多くの参加者や保護者に強い感動を与えてまいりました。

エピソード その 2

平成 16 年度第 12 回花巻大会で実施したアンケート調査によると、“親と子のふれあいタイムに参加したいが、自分達の子供はもう中学生、高校生は当たり前で大学生もいます。”という答えが返ってきました。

そうですねえ。第 1 回大会からもう 11 年経過しているのですから、この当時の子供達が大学生になっても不思議ではありません。又幼い子供達に刺激を与えるこのようなイベントは、他の大会でも実施すべきであるというご意見も沢山頂きました。日本のハンドボール発展の基礎となるかもしれません。

4、その他 — 第 1 回大会開催における克服すべき 3 つの条件 —

1) 男女とも複数の参加チームの確保

まず参加チームについては、男子・女子共に複数のチームが参加しなければ大会は成立しないわけですから、都道府県協会に大会の案内を送付すると同時に、実行委員会のメンバーが個人的付き合いのある人達に連絡を取り勧誘した結果、男子 5 チーム女子 4 チームが参加の意志を表示して下さいました。しかもその内訳は関東地方が男女 1 チームずつ、東海地方からは男子 2 チーム、女子 1 チームの計 3 チーム、近畿地方からは男女各 1 チームずつ、そして中・四国地方からも男女 1 チームずつと、広範囲の地域からチームが参加してくれたことで、何とか全日本大会の面目を保って大会開催の第一歩を踏み出す事ができました。

2) 大会会場及び宿泊施設の確保

先にも述べました通り、全日本教職員大会と同時期、同地区開催ということで、会場及び宿泊施設については、教職員大会事務局が市内は勿論周辺地域の全てを確保しておりました。最終的にマスターズ大会の会場と宿泊施設につきましては中京大学にお願いする事になり、豊田学舎内の大学施設を使用させて頂く事ができました。大会会場は大学 6 号館大体育館に 33m×19m のミニコートが 3 面作り、2 面を試合コートで真ん中の 1 面を練習コートとして使用しました。宿泊については、外部から大学に来られた人達の為に、合宿

施設2つと教室1つを利用することでこの問題も無事解決しました。

エピソード その3

大会後にアンケート調査を行ないましたが、宿泊について利用者から2つの反応がありました。大会中の宿泊施設の1つは5階建ての5階に在り、エレベーターも当然無し、しかも室内は2段ベッドのエアコンなしと云う施設だったので、“大学時代の厳しい合宿を思い出して良かった”と“この年齢ですのでお金も有りますから、ホテルに宿泊させて欲しかった。”というご意見でした。

この結果、第2回大会からは市内のシティホテルを利用することにしました。

3) 食堂と150人分の食事の確保

食事を取る為の施設は、宿泊施設に出来るだけ近くに在ると云うことが条件になるので、大学正門前にある田園レストラン「ピノキオ」のオーナーに交渉しました。「その期間は家族で旅行に出掛けているので協力出来ないが、施設だけなら貸しても良いですよ。」というご好意に甘えさせて頂きましたが、150人分の食事の難題が残りました。しかし、この件につきましても多くの人達のご協力を頂き解決することが出来ました。豊田市内の料理屋さんで食肉を卸している精肉店の社長に相談したところ、取引先の数店舗を紹介して頂きまして交渉した結果、中華・洋食・和食の3つのお店が協力をして下さることになりました。これに加えて精肉店の社長もオツマミを中心にオードブルを申し出て下さり、計4店舗が店の昼休みにそれぞれ3~4種類を調理して懇親会の会場に出前して下さいました。150人分の食事を2日間作るのですから、お店の方にはご面倒をおかけしましたが参加者の皆さんには大変喜んで頂きました。

以上が第1回全日本教職員ハンドボールマスターズ大会の開催までの経緯です。この大会を10年~20年と継続してゆく事が何よりも大切であり、その難しさを誰よりも痛感させられ、不安もありましたが、愛知県内、県外の多くの方々のご協力を得ることで、1つ1つのハードルをクリアしてゆく事ができたと思っております。

又、親と子のふれあいタイムにつきましては、第1回大会で見た子供達の光景が、その誕生のキッカケとなったことから第1章に掲載させて頂きました。

第Ⅱ章 全日本マスターズ大会のあゆみ

1、 11年間に亘る大会規模の変遷

1) 大会別参加状況 — 表-1、表-2参照

第1回大会から第12回大会までの11年間を、参加チーム数及び参加選手数の視点から分析すると、以下の3期に区分することができます。

① 立ち上げ及び我慢期 — 第1回大会～第4回大会

平成5年(1993年)に第1回マスターズ大会を立ち上げました。この年は何とか男子5チーム、女子4チームの9チームの参加申込みがありましたが、以後第4回大会までの3年間は9チームを超えることはありませんでした。特に第2回大会において、女子は前年と同数の4チームが集まりましたが、男子については1チームだけしか集めることが出来ませんでした。この間、実行委員会のメンバーは大会の継続を願い、口には出さなかったものの、とにかく3年間は辛抱しようという思いが皆の表情や行動に表れていたように思われます。何故、我慢期にならざるを得なかったかを考えますと、多くの全国大会が開催されているのをはじめとして、大会が目白押しの過密化した夏休みに新しく大会を参入させることの難しさと、大会名に教職員という名前が入っていることから一般のクラブチームが参加しにくかった、この2つが大きな原因と思われま

② 萌芽期 — 第5回大会～第8回大会

平成9年度第5回大会は初めて豊田市を離れて、名古屋市の愛知県体育館で開催されました。この大会は第40回全日本教職員選手権大会と連結させて、最初教職員大会を開催し、終了後引き続きマスターズ大会を開催するという大変忙しい年になりましたが、男子女子共に5チームが参加し、初めて合計2ケタ10チームが参加しました。しかし、参加チームを見ますと男女とも相変わらず殆どの選手が教職員出身者でした。ところが、第6回大会からはちょっと様子が変わってきました。男子チームが前年より倍増し、女子は1チームの微増で6チーム合計16チームが参加しました。更に男子の初参加の5チームは愛知コモンズ、名城オールスターズ、神楽坂フェニックス、生駒オークス、下関巖流会という一般のクラブチームでした。第7回大会は山口県の下関市、第8回大会は愛媛県の松山市で開催されました。この両方の大会が愛知県から離れてはじめて開催されたこととなります。

この両都市で開催された第7回、第8回大会も、男女とも初出場のチームの殆どが一般

クラブチームでした。

第5回大会から第8回大会の4大会を見ますと、参加チーム数が10チーム以上になったことと、教職員中心の大会から一般クラブチームが新規参加するようになったことで、マスターズ大会の体質変容期を迎えることとなります。

③ 隆盛期 —— 第9回大会～第12回大会

第9回の豊田大会から、参加チーム数が前年の松山大会と比較して男子が11チーム増加して21チームに、女子は3チーム増加して11チームにと、男女合わせますと32チームとなりました。20チーム台に止まらず、一気に30チーム台の時代に突入しました。

第10回大会も9回と同じく豊田市で開催されましたが、9回大会を1チーム凌ぐ33チームが参加し、内容的にも雰囲気的にも記念大会にふさわしい、素晴らしい大会にすることができました。

第11回大会は宮崎市、第12回大会は岩手県の花巻市で開催されましたが、チーム増加の勢いは止まらず、宮崎大会は35チーム、花巻大会は更に4チーム凌ぐ39チームが参加しました。そしてこの2つの大会には大きな共通した特徴がありました。

宮崎大会では男子が11、女子5の初参加チームがありましたが、その全てが九州ブロック所属チームでした。又花巻大会でも男子が11と女子が3の初参加チームのうち、男子の10チーム、女子の2チームが東北ブロック所属チームでした。何故このようなことが見られたかと申しますと、九州ではかなり以前から福岡県の久留米市協会が主催して、九州マスターズ大会が開催されているというお話を伺いました。又東北も3年ほど前から東北マスターズ大会を開始しましたというお話で、両ブロックとも既にマスターズ大会の先進ブロックであった訳で、多くのチームが初参加されたのも不思議なことではありません。

尚、平成17年度第13回大会は大阪市で開催されますが、ここも大阪を中心に近畿マスターズ大会を立ち上げたということですので、初参加チームがどれくらい増えるか楽しみにしています。

エピソード その4

2001年第9回豊田大会から(財)日本協会との共催となりました。その年は実現しませんでしたでしたが、次の年の第10回記念大会には(財)日本協会専務理事の大西武三氏が出席して下さいまして、開会式や懇親会で挨拶をして頂きました。続いて第11回宮崎大会には副会長の市原則之氏が、WAKUNAGAチームの一員として参加して下さいました。それまではこの大会の発起人のお一人で、第1回大会から全ての大会に参加しておられる、現在、

日本協会普及部本部長の角 紘昭氏に、時には協会の代表として挨拶して頂いておりました。選手の合間を縫いながら気疲れのする役割を担って頂いておりましたので、いつも恐縮しておりました。今後も（財）日本協会及び関連する団体の役員の方々が、役員としてだけでなく選手としても参加して頂きますと、大会が大いに盛り上がることは間違いないと思います。

又、同じく宮崎大会には、地元、都城の泉ヶ丘高校出身でインターハイにも出場経験のあるタレントの“そのまんま東”氏が多忙の中を参加され、4試合全て出場し、更に懇親会ではトークで参加者を楽しませて下さいました。このように趣向を凝らして行きますと、マスターズ大会は増々盛り上がりを見せて行くことでしょう。更なる盛り上がりの為に皆様方のご協力を期待しております。

2) 全国ブロックから見た大会参加状況 — 表-4 -(1), (2)参照

日本を8ブロックに分けて、それぞれの参加状況について分析を加えてみたいと思います。参加チームの中にはこのマスターズ大会に合わせて全国から集合し、普段は個人でトレーニングをしているチームも少なからずありますので、明確にブロック別に或は都道府県別にチームを分類することはできません。ですからそれに該当するチームに関しては、代表者や競技運営委員や、そのチームの選手の占める割合の高い所在地に当てはめて分類させていただきました。全国ブロックからみますと、チームとしては北海道と北信越ブロックがこれまで不参加となっております。しかし、北海道につきましては第11回宮崎大会あたりから、個人参加者が何人かのレベルではありますが申込みがありましたし、近々チーム参加も見られるのではないのでしょうか。北信越地方も平成19年度第15回大会を富山県で開催する予定でありますので、その頃までにはブレイクして北信越の所属チームが富山大会の中心となり、大会を盛り上げてくれると確信しております。

又ブロックによっては片寄りがありまして、その中でも九州ブロックと東北ブロックは県別参加状況に共通した特徴があります。第11回大会は宮崎市で、第12回大会は花巻市で開催されました。主管となりました両県のハンドボール協会のご尽力に因りまして、県内は勿論他県からも参加チームを集めて頂きましたが、九州ブロックは大分県と長崎県、東北ブロックは宮城県と福島県と、残念ながらどちらのブロックも2県ずつ不参加でした。

ところが他のブロックはもっと片寄りが激しく、西から申し上げますと、中・四国ブロックでは鳥取、島根、香川、徳島、高知県と、中・四国9県中、5県がまだ不参加となっております。

近畿ブロックは2府4県中、滋賀県と和歌山県が不参加となっておりますが、平成17年度第13回大会を大阪市の舞州体育館で開催する事が決定しておりますので、来年には

この両県からも何チームかが参加して下さることと思います。

東海ブロックも三重県が男子、岐阜県が女子、静岡県は男女とも不参加で、愛知県に偏っているのが現状です。是非ともこの片寄りを解消する為にも、平成 18 年度第 14 回大会は東海ブロックで開催しなければならないと考えております。

最後に関東ブロックを見ますと 1 都 7 県のうち、東京と埼玉は男女複数チームが参加し、山梨県が男子のみ参加です。神奈川県、千葉県、群馬県、栃木県、茨城県の 5 県が不参加ですが、これも平成 20 年度第 16 回大会が神奈川県で開催されますので、追々解消されるのではないのでしょうか。

しかし最初にお話しましたように、1 地域からチームを作って参加するチームが多数とはいえ、この大会の為に多数の地域からチームを作り、普段は個々にトレーニングをしているチームも多く、不参加の県を記述はしましたが、個人的には全ての都道府県から参加しておられると思われま

2、 大会規模の増大とコンセプトづくり

12 回もの回を重ね、規模が拡大されていく中、以下の 7 項目は大会実行委員会のメンバーによる問題提起、或は参加したチームの皆さんからのご指摘を基に検討されて来たものです。この姿勢こそが、全日本マスターズ大会の形（かたち）を築き上げてきたものと思います。

今後も理想とする姿をイメージし、大会ごとにひとつひとつ新しいコンセプトを見い出しながら、参加者の為の優しい在り方を模索して行くことでしょう。

1) 自主独立型大会を目指して

第 1 回大会が全日本教職員選手権大会と同時期、同地区大会を目指した事もあり、マスターズ大会は準備の段階から、参加チームが出来るだけ協力し運営していこうという、自主独立型大会への気概が生まれていました。年々その傾向は高まって来ており、例えば審判は 3 審制を採用し、移動を最小限に押さえ、試合のないチームが担当するようになりました。又記録用紙も最初は公式記録用紙を使っていましたが、罰則等も殆どなかったのでマスターズ用の記録用紙を作成し、初心者でもオフィシャルが出来るようにしてきました。今後も自主独立大会へ向かっていくものと思われま

エピソード その 5 マスターズの原点

マスターズ大会も第 8 回松山大会までは、全日本教職員連盟だけで大会を主催しておりました。その頃はいろいろな場面で at home 感がにじみ出ていました。その中の一場面

に付いて記述してみましよう。

第2回大会は男子の参加チームが ATF 1 チームでした。せっかくの時間と空間が在るので、会場に居る人達でチームを作ってゲームを楽しみました。

当時副会長の佐野和夫さんと理事長の山下勝司さんの国際審判員コンビが、金色の短パンをはいてレフェリーを務めて下さり、審判長の島崎政治さんと総務委員長の中野利一さんは選手として張切ってコート上に居るという状況の中で、ひょっとコートの外の得点掲示板を見ますと、高橋健夫会長が御自ら椅子に座って得点係をしておられるではありませんか。“俺にも是くらいなら出来るよ”と背中で語っているかのように得点カードをめくっている姿には何のてらいもなく笑顔すら浮かべて仕事をして下さいました。こんな光景はよそでは絶対に見る事が出来ませんよね。この調子が夜の懇親会まで続き、皆さん、ざっくばらんに昔の思い出話しや将来の夢について語り合う事が出来ました。このような雰囲気こそがマスターズ大会の原点ですので、参加人数がどんなに増えようともこの原点だけは残して行きたいものです。

2) 全員参加で楽しい懇談会

マスターズ大会は、競技スポーツの第一線を退いたハンドボーラーの為のレクリエーションスポーツと位置付けた大会なので、ハンドボールを十分満足するまで楽しんでもらうことと、ハンドボールの過去、現在、未来を語り合う場にする事の2つの大きな目的を持っております。

懇談会は当初から全員参加を基本としており、お酒を酌み交しながら昔話に花を咲かせ、ハンドボールの将来を語り合う交流の場として好評を博しております。愛知県で開催された第2回大会から第6回大会までは、参加人数が多いといっても200人未満でしたので、居酒屋さんを借り切って座敷での宴会でした。又、第8回の松山大会では教職員会館のワンフロアを借り切り椅子席で行なわれましたが、250人近い参加者となり超満員の中での懇親会となりました。

その後は、参加者が400人を超えるようになり、大学の学生食堂やホテルの宴会場など、座席形式で多人数を収容できる会場を探すのに、大会実行委員会の皆さんは予算と相談しながら苦労しております。

エピソード その6 壁一面のスナップ写真

愛知県で開催されました大会では、開・閉会式を始めとしてチームや全体の集合写真、ゲーム、懇親会など沢山のスナップ写真を撮ってきました。後藤恵里子さんには多忙の中、わざわざ東京から出張されて各場面を的確な角度から撮影して頂きまして、参加者から大

好評を博してまいりました。撮ったフィルムはその数 30 本を超えたこともありました。撮り終えた傍から近くのカメラ屋さんに持ち込み、出来上がった写真は懇親会の会場や体育館の壁一面に貼り出し、皆さんに見てもらいました。B 紙にフィルム 1 本分をセロテープを使って添付するのですが、実行委員会の写真担当の皆さんは毎回のことで慣れた手付きで作業を進め、注文には手際良く答えており、傍から見ておりましてもその手捌きには吃驚させられました。

3) 高齢者にやさしい大会を目指して

大会の年齢制限については第 I 章の 1 の 2) 参加資格の検討の項で記述しましたが、各年度の参加選手の最高年齢者と最低年齢者の年齢差を比較して見ますと、第 6 回大会までは年齢制限をクリアしていない人も結構参加しており、他のチームも暗黙の了解で認めておりました。そのような事情で年齢差が 20 歳を超えることもありました。第 7 回大会からは、ほとんどのチームが年齢制限をクリアして参加するようになったのですが、やはり男女とも年齢差が 20 歳を超えるようになりました。

年齢差が 10 歳違っても大変なことと思いますが、20 歳を超えると高齢者は参加することを遠慮されてしまいます。そこで年齢を表示する短パン（ショートパンツ）を製作しました。55 歳以上の選手は金色の短パン、50 歳以上の選手は銀色の短パンを穿いてもらい、この人達には特別な敬意を払って交流して欲しいと訴えました。その効果があったかどうか分かりませんが、第 12 回花巻大会の最高年齢者は男子が 71 歳（年齢差 31 歳）、女子 61 歳（年齢差 28 歳）となり、心密かに安心いたしました。

エピソード その 7

—— 昔懐かしいハチマキ姿と特別ルール ——

年齢制限に満たない選手に対しては、参加チーム間で暗黙の了解をしていたと前述しましたが、実は女性チームの間ではこの問題に対して不満が燻っていました。そこで、運営委員会の場で女性チームだけで話し合ってもらいましたところ、下記の特別ルールを設けることで決着しました。50 歳以上の選手と 30 歳未満の選手には、試合中は色違いのハチマキをしてもらい、この両世代の選手が得点した場合には 7m スローを打つというルールです。50 歳以上の選手が得点時に与えられる 7m スローを決めることができれば、加点されて 2 得点とする。又 30 歳未満の選手が得点した場合には、7m スローを決めなければこの得点は認められないようにしました。このルールは 2 年程適用されましたが、そのうち参加チームが年齢制限をクリアするようになりまして、不必要となり自然に消滅して行きました。ハチマキ姿の女性選手はよくインターハイや高校選抜で見る機会がありま

したが、50歳以上の選手のハチマキ姿もなかなか新鮮で昔を懐かしんでいるのか、ハチマキに抵抗感もみせず楽しい風景でした。

このように年齢に関わって起こる問題が、マスターズ大会を継続していく上で一番難しいところです。毎年年齢制限をクリアした人達が参加してくるわけですから、毎年選手間の年齢差は確実に開いて行くということになります。この年齢差を超越し、楽しく老若が交流を深めて行くことこそがマスターズ大会の精神となりますので、これは永遠のテーマになって行くことと思います。

4) 試合方式の変更で参加目的の明確化を図る。

前述しましたように、第9回大会から参加チーム数が急増しました。男子は前年度(第8回大会)より11チーム増え21チームに、女子も同じく3チーム増え11チームにと、男女とも2桁チーム数となり、合計32チームの参加申込みがありました。この急増に対して、大会実行委員会はこの事実をあまり深く考えず、特に男子チームは平均年齢で年齢順に7チームずつ3グループに分け、リーグ戦を執行致しました。ところが平均年齢の若いグループで傷害が多数発生してしまい、見通しの甘さを曝け出してしまいました。この失敗を深く反省し、第10回記念大会からは『いつまでもプレーを続けてゲームという緊張感を楽しみ、優勝などを求めないグループ』と『ある程度高齢になっても「まだ出来る」という実感を楽しみ、順位を決めていくグループ』と2つの目的別グループに分類し、前者のグループが出場する試合方式を交流型方式、後者のグループが出場する試合方式を順位決定型方式と命名しました。この2方式を採用した結果、第10回記念大会はほとんど大きな傷害も発生せず、大会を終了することができました。

5) 優秀賞と参加回数10回の表彰

表彰につきましては通常の優勝、準優勝、第3位のチーム表彰で榮譽を称える他に、個々のチームの自薦による優秀賞を設定しました。

優秀賞は勝敗にこだわるよりもハンドボールを楽しむという、マスターズ大会らしいコンセプトから表彰することにしました。第9回大会までは参加した全チームに授与しましたが、第10回記念大会からは交流型グループと順位決定型グループの2方式にわかれましてので、表彰についても2つに分けて考え、順位決定型グループはこれまで通りチーム表彰で榮譽を称え、交流型グループについては優秀賞を引き続き継続し、個人表彰で榮譽を称えるようになりました。しかし、第12回花巻大会では事務局の温かいご配慮で、参加全チームに優秀賞が授与されました。有難いことです。

第10回記念大会では、第1回から10回連続参加したチームを表彰することにしました。

地元愛知のATFと中部ドリームズの2チームと、瀬戸内レディースの合わせて3チームがその対象となりましたが、その中でも瀬戸内レディースは遠方より連続出場され、時にはチーム構成が出来ないまま来豊し、中部ドリームズから補充するなど、四苦八苦しながら10回連続出場を果たしました。第11回大会では武蔵野クラブとモッピークラブの2チームが10回出場を果たし、表彰されました。モッピークラブは何回か名称を変えましたが、大阪の寝屋川高校のOGを中心としたチームで絆の強さを感じています。武蔵野クラブは第2回大会から連続出場され、一般クラブチームとして始めて参加してくれた、貴重なチームという印象があります。平成17年度大阪大会では、兵庫県選抜の1チームだけが10回出場に該当します。男子では2チーム目なので是非達成して欲しいと思います。

6) 大会毎の参加記念品と亀さんのロゴマーク

① 参加記念品

第1回大会	大会名を印刷したテレフォンカード
第2回大会	大会名を刺繍したバンダナ
第3回大会	黄瀬戸のマグカップ
第4回大会	左胸に亀さんのロゴマーク入りの ポロシャツ
第5回大会(名古屋市)	
第6回大会	
第9回大会	大会名の入ったフグの絵柄のバスタオル
第7回大会(下関市)	
第8回大会(松山市)	砥部焼の湯飲み
第10回大会	左胸に亀さんのロゴマーク入りTシャツ
第11回大会(宮崎市)	
第11回大会(花巻市)	

この参加賞の中で、特に印象深く記憶に残っている、平成6年度第2回大会の参加賞にしたバンダナについてお話をしましょう。

第1回大会は男子5チーム、女子4チーム計9チームが参加して開催することが出来ましたが、第2回大会は一転して、男子1チーム、女子4チームの計5チームと激減いたしました。とにかく女子で複数の参加がありましたので大会を開催する決定を出しましたが、運営資金も乏しく参加賞どころではありませんでした。そこで、お金を賭けずに手作り参加賞を作り、参加者の記念品とすることになりました。

先ず名古屋市の長者町という繊維問屋街に出掛けて行き、バンダナ200枚、幅2cmのり

ボンテープ、数色の刺繍糸、包装用のセロファン袋を購入し、次に知人から刺繍用のミシンを無理を云ってお借りしました。このようにして必要な材料を揃え、中部ドリームズのメンバーの手作業（リボンに大会名を刺繍する→リボンをバンダナに縫い付ける）によって、記念品が作られてゆきました。最後は全員の手で1枚1枚セロファンの袋に入れて完成させました。1枚200円ちょっとの値段で出来ましたが、人件費を入れるとこの何倍もの値段になったことでしょう。このバンダナを『今でも使っていますよ』と声をかけて下さる人もおられます。手がかかっただけにこんなに嬉しいことはありません。

エピソード その8 —— 大会参加料と記念参加賞 ——

年齢制限が男子40歳以上、女子35歳以上、と大人の参加する大会ということで何とか工夫をし、実用的で記念に残る参加賞をと色々考えてきました。又参加料は、第1回から第8回まではチーム参加料として徴収しておりましたが、1チームの参加人数が増えれば増える程、参加料に対する参加賞代の占める割合が大きくなり、第9回大会より個人から参加料を徴収する事になりました。大会が盛んに成ればなる程の悩みで仕方ないですね。

② ロゴマークの誕生秘話

第4回大会を前に大会のロゴマークを作ろうと提案したところ、どうせなら一般公募を試みましょうということになりました。公募案内を豊田市内のいろいろな施設に配布しましたが、締切日になっても応募はゼロでした。仕方なく豊田大谷高校の三浦初枝先生に、イラストやデザインなど美術の好きな生徒を紹介して欲しいとお願いしたところ、高校3年生の女子生徒の中に適任者を見つけてくださいました。その生徒に大会の事情を説明し、大会のイメージを作ってもらい、その結果、現在大会で使用しているロゴの亀さんマークが誕生しました。

エピソード その9

第10回大会が記念大会ということで、ロゴマークに何か工夫を加えようと言う事になりました。我々マスターズ世代なら誰でも口ずさんだことのある“親亀の背中に子亀をのせて、子亀の背中に……親亀こけたら皆こけた”という歌をヒントに子亀を背中にのせました。

7) テーピングサービスの提供

テーピングサービスは第1回大会から第4回大会までは、業界大手の日東電工(株)のご協力でお店して頂きましたが、テーピングは勿論ですが、キネシオテープもブームを迎え、各方面から業界側へ、多くの出店要請が発生した事もあって、日程の調整がつかず協

力をして頂くことが出来なくなりました。しかしありがたいことに5回大会からは、一般の治療院開業者や病院の理学療法士あるいは柔道整復士の団体等がボランティアで協力を申し出て下さり、第11回宮崎大会、第12回花巻大会でも多くの選手の傷害予防に貢献して下さいました。このようなご協力があったからこそ、大会を成功させることが出来るのだということを改めて認識致しました。

第7回全日本マスターズ大会の思い出

平成11年度 第7回下関大会
実行委員長 中森 英明

マスターズの大会を下関で開催できないだろうかと、打診があったのが第6回大会を優勝して帰ってきた、“下関巖流会”のメンバー達からであった。早速関係機関と相談したところ、是非やろう・・・、是非やって欲しい・・・の声も多く市を含めてやる気満々でスタートした。当時の下関市ハンドボール協会の会長、金田氏の強力なバックアップも大変頼もしかった。本格的な準備に入ったのは新年度が始まった4月であった。毎年実施されているのだから、参加チームは集まるだろうと甘く考えていたが、なかなか思うように良い返事が来ない。一番迷惑をかけたのが仮予約をしていたホテルであった。市、観光協会の補助金も予算より大幅な減となった。それでも、一チームでも多くと・・・お願いを続けた。沖縄県から参加申し込みがきたときには嬉しかった。前年度女子優勝チームの、ギャロップレディーズクラブ（岩手県）には是非参加して欲しいとお願いをしたが、人数など調整がつかず不参加となったのは大変残念だった。男子8、女子6チームが最終的には決定したのが6月末であった。参加チームが多いか、少ないかは別として、大会が出来ることが大変嬉しかった。

楽しい思い出をつくって欲しい。素晴らしい試合をやって欲しい。ハンドボーラー達の素晴らしい出会いとなって欲しい・・・との思いを胸に、一丸となって準備を進めた。

参加チームが決まってからは、目が回るような忙しさであった。弱小協会でスタッフが少ないことに輪をかけて、大会直前の7月23日～25日、韓国釜山市で開催の第15回関釜親善ハンドボール大会に、下関市高校選抜チームの派遣準備、引率も重なって大変な日々であった。

8月6日（金）開会式を迎え、参加チームの代表者が揃った時には正直ホッとした。1日目の昼休みを使って、元オリンピック選手 GK 井藤選手を呼んで、ちびっ子相手に7メートル合戦。なかなか好評であった。

夜の懇談会は、市長、教育長、市議会議長をはじめ多数の来賓の出席もあって、大変華やかなものとなった。メインのアトラクションは、下関巖流会のメンバーが中心となって地元保存会の太鼓の競演、全員参加のビンゴゲーム、ジャンケン大会など時間の経つのを忘れるほどの盛り上がりであった。2日目も予定通り順位決定戦も終わり、全日程を無事終えることができた。所期の目的が達成できたのも、参加選手の皆さんは勿論のこと、関係各位のご協力があったからこそと、感謝の念で一杯である。

特に約半年に亘って電話でご指導いただいた小山先生、遠路下関まで来ていただきご指導いただいた島崎先生、島田先生には本当にお世話になった。多くの人達との出会い、そして多くの感動を頂いた大会だった。

あのころを振り返って

平成 12 年度第 8 回松山大会
事務局 石川 達也

平成 5 年に豊田市で開催された教員大会に参加した時、OB 教員を対象にマスターズ大会が始まったことを知りました。当時、私は 30 代も後半にさしかかり、教員大会に出場するのも「ちょっときついな」と感じ出した頃でした。40 歳以上の大会なら、楽しみ乍らハンドボールとかかわることができるかな、と思いました。

4 年後に愛媛県の教員でも何とかチームが組めるようになり、第 5 回大会から毎年参加しています。懇親会の時に、愛知県の方から『全国の各地で大会が開催され、マスターズ大会がますます盛んになるといいな』と言う話を伺いました。愛媛県でも開催しようという声があがり、幸いにも教員大会と併せて開催することができました。

第 8 回大会を四国の松山での開催が決定し、参加者に喜ばれる大会にしようと、愛媛県協会あげて準備に取りかかりました。当時も参加チームが、毎年増えていった時期で、最終的に男子 10 チーム、女子 8 チームの参加がありました。

「家族で楽しんでもらえる大会」を目指して、宿泊は道後温泉を中心にお世話をしました、1 日目の昼休みを利用した『子どもたちの時間』には気を使いました。子供達が楽しめるようにと考え、ぬいぐるみを来たゴールキーパーに対してチビっ子が 7m スローコンテストを行い、その後地元の小学生チームとのミニゲームをしました。将来の名選手の好プレイには温かい拍手があったことは今でも覚えています。

一方、参加者が楽しみにしていた懇親会では会場探しに苦労しました。こちらも「にぎたつ会館」の好意で、250 名が一同に会することができ、家族ぐるみで親睦・友情を深めることができました。

大きなけがも無く終えることができ、所期の目的であった、参加者に喜んでもらった大会だったと思っています。ただ、近年、マスターズ大会は参加規模が膨らみ、勝利最優先のプレイが目立ち出したように思います。生涯スポーツの一貫として、親睦第一の精神をこれからも大切にしたいものです。

第11回全日本ハンドボールマスターズ大会について

宮崎県ハンドボール協会

理事長 宮元章次

2003 11th All Japan Handball Masters Tournament (proposal)

25th ~ 27th July 2003, Miyazaki, Japan

上記の英文タイトルで要項を作成して、海外への情報発信をこころみようとした大会であったが、SARS の衝撃が大きかったのか？海外との交流が何処かに吹っ飛んでいった。小山氏の構想がいつしか実現する事を期待しながら宮崎大会を振り返ることとする。

会場は宮崎県体育館 宮崎市総合体育館 宮崎学園高等学校体育館に5面を設定した。大淀河畔のホテルから歩いて参加できる所にあり、交通の便の良い大会となった。大会に参加したチーム、人数、ゲーム数を順位決定型と交流型に分けて示すと、男子順位決定型8チーム102名16ゲーム、男子交流型14チーム168名28ゲーム、女子順位決定型5チーム51名10ゲーム、女子交流型8チーム99名16ゲームあった。九州の南部で行なわれながらも、交流型を中心に参加者を増やすことができた。

本大会の特色として帯同医師とテーピングサービスの実施、飲み物の無料提供、競技規則を明文化、地元レフェリーによる順位決定型の運営、地元大学生による子供預かりボランティアと記念写真の撮影、交流型チームへのメダル授与などが挙げられる。特に、大きな障害を起こさなかったことや、チーム写真をネガと一緒にプレゼントしたことが好評であった。メダルを地産の木材で作ったことも評価が高かったようである。

この大会が、宮崎で開催されて様々な効果が現われているが、その一つがジュニアの育成である。競技1日目のお昼休みを利用して『子供交流タイム』をセッティングし、名古屋の若松義則氏が講師をしていただいた。その後、マスターズ大会の参加者は多くの割合でジュニアの指導とかかわりを保っている。教職員ハンドボール連盟が主催であることを考慮すれば、ジュニアの育成に教職員連盟の果たす役割は大きいと思われた。

2004第12回全日本ハンドボールマスターズ大会報告書

花巻市ハンドボール協

事務局長 中島昭博

北は北海道、南は沖縄まで男子 27 チーム、女子 12 チーム、合計 39 チームおよび 5 名の個人参加を含む総勢 412 名の参加により、第 12 回大会が第 3 回東北社会人マスターズ大会を兼ねて、東日本では初めて、岩手県花巻市において開催されました。

初日の開会式直前には、第 1 回 11 人制大会が開催され、開会セレモニーで岩手県協会名誉会長箱崎敬吉氏から会場の日居城野運動公園陸上競技場は昭和 24 年岩手インターハイの折りに、11 人制ハンドボールがデモンストレーションとして披露された場所で言わば岩手県のハンドボール発祥の地であるとの挨拶があり、続いて全日本教職員連盟名誉会長佐野和夫氏、本大会審判長で教職員連盟副会長の島崎政治氏から挨拶を頂き、7 人制のゴールのほぼ 2 倍ありますサッカーゴールポストを背景に全員集合写真の撮影の後、箱崎氏のスローオフの笛で試合が開始されました。最高齢 71 歳の河内氏を筆頭に、大阪、京都、愛知、岩手から参加した還暦前後の往年の名プレーヤーたちが晴天のもと、緑の芝生コートで汗を流しました。前半は葵、LBC アルバトロス教職員連盟の連合チームがリードを奪い、HC 名古屋 A・T・F・中部ドリームス、岩手連合軍チームも岩手の北村尚英、増田学の両ベテランの適切な指示のもと、ペースをつかみ始めると徐々に追いつき逆転したところで前半終了。後半は男性、女性の選手が入れ替わり立ち代わり交代しながら熱戦が展開され、次年度開催の大阪府協会理事長中村博幸氏と副理事長谷口賢次氏や岩手県協会理事長谷藤勝美氏、拙者も飛入り参加するなど和気あいあいの雰囲気の中、終了の笛が吹かれました。最後に参加者全員が円陣を組み、京都大学 OB 川野春雄氏の音頭でエールの交換をかわし、幕を閉じました。この 11 人制ハンドボールの復活は、大会前日から花巻入りして早朝から会場準備にご尽力頂いた A・T・F の浅田氏、高橋氏、富田氏と小山ご夫妻、京都大学 OB 川野春雄氏、東京大学 OB 佐尾邦久氏ほか多くの方々との調整役を担った日本協会マスターズ担当の小山哲央氏のご努力によるものであります。また、芝の整備やテント設営など花巻市教育委員会体育振興課の高橋宏明氏を中心とする行政のバックアップがあり、天候にも恵まれて絶好のシチュエーションの中で実施できたことは幸運なことでした。

2 日目から順位決定型は花巻市総合体育館 3 面、交流型は富士大学スポーツセンター 4 面の合計 7 面で、7 人制競技が開始されました。「こども交流タイム」も毎年恒例となった名古屋の若松氏のリードにより、地元や大会参加者の子供たちが大人と一緒にレクリエーションやハンドボールのルール理解とゲームを楽しみました。

その夜には、参加者と地元有志によるレセプションが宿泊先でもある花巻温泉ホテル紅葉館で催されました。詩人宮沢賢治がこよなく愛した花巻農業高校生による郷土芸能

「^{ししおどり}鹿踊り」のオープニングでの幕が上がり、500人近い参加者は旧交を懐かしみ、チーム間交流が図られました。沖縄マミーズによる飛び入りの“チャイニーズダンスショー”には、会場割れんばかりの大歓声が沸き起こりました。

最終日、白熱したゲームは午前中で終了し、順位決定型男子は、埼玉フェニックス、女子は風見鶏ファミリーがそれぞれ前年度優勝チームを退けて優勝を飾りました。表彰式では、順位決定型1位から3位チームに、日本協会・教職員連盟から賞状と、大会事務局からトロフィーが贈られました。交流型上位の男子：湯沢クラブ、泉丘会、兵庫選抜、女子：ギャロップレディース、瀬戸内レディースには、花巻市長賞として民芸品が、さらに、各チーム代表2名には、優秀選手賞として記念品が贈られました。表彰終了の後、佐野和夫教職員連盟名誉会長から講評が述べられ、全日程を終了しました。

本大会では初めて11人制を開催しましたが、たいへん素晴らしいスポーツと感じました。これからも継続して生涯スポーツの一助になれば幸いとの感を強くしました。

今回の大会開催にあたり、ご支援いただきました日本ハンドボール協会、全日本教職員連盟、関係団体、協賛各社、地元スタッフ、参加チームのみなさんに心から御礼申し上げ、マスタース花巻大会の報告とします。

第三章 1 1人制ハンドボールの復活を目指して

1、復活の経緯

緑の芝生の上でさんさんと輝く太陽のもと、上半身を裸にして 11 人制ハンドボールを楽しんでいる光景を、今でもヨーロッパの各地で見ることができると云う話を以前から聞いておりましたが、国内では復活の声を何度も耳にしながらも、マスターズ大会での実現には及びませんでした。昨年の宮崎でのマスターズ大会の会場で、平成 16 年度マスターズ大会開催地の実行委員会事務局長、岩手県立花巻北高校の中島昭博先生に 11 人制開催の件を相談させて頂きましたところ、「マスターズ大会の主会場となる総合体育館に隣接して、芝生のサッカー場がありますからできないことはないですよ。」とのご返事を頂きました。これは 11 人制ハンドボールを復活させる絶好のチャンスと感じ、開催実現に向けて、より具体的な活動を開始しました。

更に、今年の 2 月に花巻市で開催されました、第 2 回マスターズ実行委員会に出席させて頂きました折に、岩手県協会名誉会長箱崎敬吉氏から、日居城野運動公園の陸上競技場は、昭和 24 年に開催された岩手インターハイの時に、11 人制ハンドボールがデモンストレーションとして開催された場所で、言わば岩手県のハンドボール発祥の地であるとお話を伺いました。そこで急遽会場をサッカー場から陸上競技場のフィールドに変更してもらい、またとないシチュエーションを得、大会開催に向けて絶好のスタートを切ることができました。

11 人制ハンドボールに関しては、私自身も高校 1～2 年生の 2 年間しか経験したことがない忘却状態にありました。そこで A・T・F の浅田、高橋、富田、の 3 先輩から助言を承ったことを始めとしまして、東大、京大定期戦で 11 人制ハンドボールが毎年実施されているとの情報を得て、京都大学 OB 川野春雄氏、東京大学 OB 佐尾邦久氏ら多くの方々から suggestion を受けることができました。このようにして記憶をたどりながら 11 人制ハンドボールの復活を何とか実現することができました。

2、第 1 回 11 人制ハンドボール大会のゲームに臨んで

今回はマスターズ大会参加チームへの広報活動が十分にできなかったこともあり、葵クラブ、LBC アルバトロス、教職員連盟の連合と HC 名古屋 A・T・F と中部ドリームズ、岩手県有志の連合の 2 チームの参加に止まりました。

開会式は、県協会名誉会長、箱崎敬吉氏のご挨拶で始められ、続いて全日本教職員連盟名誉会長、佐野和夫氏、本大会審判長で教職員連盟副会長の島崎政治氏からご挨拶を頂き、ゴールポストを背景に全員集合写真の撮影の後、箱崎敬吉氏のスローオフの笛で試合が開

始されました。前半は葵、LBC アルバトロス教職員連盟の連合チームが試合に慣れているということもあり、リードを奪うが我々のチームも岩手県有志の北村尚英、増田学の両ベテランの適切な指示を頂き、ゲームのペースをつかみ始めると除々に追いつき、逆転したところで前半を終了するという展開となりました。

7月23日(金)、この日は丁度梅雨明け宣言が気象庁から出され、30度近くの気温に蒸暑さも加わる中、後半は男性、女性の選手が入れ替わり立ち代わりしながら、25分間を戦いました。この熱戦の中、大阪府協会理事長中村博幸氏、副理事長谷口賢次氏、岩手県協会理事長谷藤勝美氏、マスターズ大会実行委員会事務局長中島昭博氏の4人も観戦だけではもの足りず、飛入り参加されるなど和気あいあいの雰囲気の中、終了の笛が吹かれました。最後に参加者全員が円陣を組み、京都大学OB川野春雄氏の音頭で相互にエールの交換をかわし、第1回11人制大会の幕を閉じました。

3、 11人制大会の今後

最初に申しあげました通り、緑の芝生の上で夏の青空の下、11人制ハンドボールができたことについて、経験者も未経験者も参加者全員がゲームを満喫し感激の声をあげました。役員や選手の皆さんがこの大会の継続をそれぞれ口々に求められる中、今大会最年長者である71歳の河内鋭雄氏が締めの挨拶で更に念を押すと、来年度マスターズ大会開催を決定している大阪府協会の中村博幸理事長も閉会式の中で、11人制ハンドボール大会の実施(継続)を声高らかに宣言して下さいました。

又マスターズ大会の参加チームに今回アンケート調査を実施し、11人制の大会について集計したところ、参加チームの7割が復活を支持され、更にその65%以上が来年度の参加を希望するとの結果もでていました。

このような現状の中、是が非でも11人制大会を今後も継続し、11人制世代の人達と未経験の男女チームが参加し、レクリエーションスポーツとして、11人制ハンドボールを定着させてゆきたいと考えております。

第IV章 全日本ハンドボールマスターズ大会の今後の行方

1、マスターズ大会は何チームまで受入れ可能か？ — 表-3参照

1) 大会時期と大会期間

- ① 現行方式の継続 — 7月の最終週の金・土・日に開催する
- ② ハッピーマンデー方式 — 右記の年間4回のハッピーマンデーのいずれかを利用する。

- A 交流型、順位決定型ともに土、日、月を利用する
- B 交流型、順位決定型ともに1日延長する
- C 交流型、順位決定型を1日ずらして開催する

1月	成人の日
7月	海の日
9月	敬老の日
10月	体育の日

2) 設置コート数

第9回大会より、5面のコートを使用して大会を運営してきましたが、第12回花巻大会では無理を言いまして、7面のコートを用意して頂きました。

今後7面は無理としても、少なくとも5面を用意して頂くことを条件にしたいと思えます。

3) 試合時間と試合間のインターバル

- これまでの大会は、
- ① 15分-5分-15分
 - ② 10分-5分-10分
 - ③ 20分のみ

と言う3つの試合時間でやってきました。③の20分のみについてはあまり評判は良くなく、短くてもハーフタイム制をとって欲しいという意見が多かったため、参加チーム数によって①か②の試合時間で今後は実施していきたいと思えます。又、試合間のインターバルは、短いと大会が忙しく感じますので10分間が最適と考えます。

4) 大会期間中の1チームが行なうゲーム数

- ① 15分-5分-15分の場合 3~4ゲーム
- ② 10分-5分-10分の場合 4~5ゲーム

※ 1チームのゲーム数は、そのチームの構成人数やチームの希望によって決めることにより、多過ぎず少な過ぎずの回数でハンドボールを満喫してもらいたいと思えます。

5) コート1面で実施できるゲーム数

① 15分-5分-15分方式

a 1日…11ゲーム(午前5ゲーム、午後6ゲーム)

b 夜間 4ゲーム

② 10分-5分-10分方式

a 1日…15ゲーム(午前6ゲーム、午後9ゲーム)

b 夜間 5ゲーム

以上のように種々の条件を設定する事によって、参加状況に対処できるようにしておかなければならないだろう。しかし、そうは言っても最大可能チーム数は75チームであり、これを上回った時には大会そのもののシステムを変えていかなければならないだろう。

2、 マスターズ大会の規模拡大による大会の発展と分化

平成12年度第9回大会から参加チーム数が急増し、大会の隆盛期に入りましたが、この勢いは今後も継続するものと思われまます。この勢いがどこまで続くかを予測する事は困難ですが、そこをあえて予測してみたいと思います。

1) 12回大会までの延べ参加チーム数 — 表-1参照

(a) 男子 52チーム

(b) 女子 24チーム

合計 76チーム(但し、第9回大会においてオールド愛媛チームはゴールドとシルバーの2チームが参加しましたが、延べ参加チーム数では1チームとして取り扱いました。)

76チームの中には1回のみ参加チームは、今年度第12回花巻大会の参加チームを加えますと36チームと多数ありますがその多くがチームとして存在しておりまして、機会があればいつでも参加できるチームでもあると考えられます。参加資格を有している未参加チームも沢山あると思われまますし、それにも増して毎年参加資格に到達するチームが生まれることを考えると、潜在する予備チームは計り知れまません。今後の発展を多いに期待するところです。

2) これまで不参加であるが、チームや協会から大会について問い合わせ等があった県

① 富山県 ——— 平成19年度第15回大会開催予定県

② 神奈川県 ——— 平成20年度第16回大会開催予定県

- ③ 宮城県 ——— 第 12 回花巻大会の直前まで参加を希望していた チームあり
- ④ 高知県 ——— 大会開催を希望している県
- ⑤ 長野県、大分県、長崎県 ——— 何らかの形で大会事務局に問い合わせるチームがあった県

この項に記載された県は、近い将来大会参加を期待出来ると思います。

3) 不参加の道、県

北海道、鳥取、島根、香川、徳島、滋賀、和歌山、静岡、群馬、栃木、茨城、福島、福井、新潟、石川

上記の道、県につきましては、チームとして不参加であっても個人では参加しておられまして、個人参加が起爆剤となってチーム参加をして下さればと思います。

4) 今後の参加チームの予想

- | | | |
|--------------------|--|-----------|
| ①平成 17 年度 第 13 回大会 | 大阪市 | 45~50 チーム |
| ② 18 年度 第 14 回大会 | 愛知県豊橋市 | 50 チーム以上 |
| ③ 19 年度 第 15 回大会 | 富山県氷見市 | 45 チーム |
| ④ 20 年度 第 16 回大会 | 神奈川県 | 50~60 チーム |
| ⑤ 21 年度 第 17 回大会 | この 4 大会は豊田市を中心に開催し、
このうちの 1 回は
愛知県外で開催する | |
| 22 年度 第 18 回大会 | | |
| 23 年度 第 19 回大会 | | |
| 24 年度 第 20 回大会 | | |

平成 24 年度第 20 回大会までに最大 80 チームの参加が見込まれます。豊田市では平成 19 年度に現体育館に隣接して新体育館が完成し、両体育館を合わせると 6 面以上のコートを設置できるようになります。このようなことを考慮すると、豊田市では 80 以上の参加チームに対応できる会場を確保できます。

5) 発展と分化 — 図 - 1 参照

上記の通り最大参加チーム数が 80 を予想しておりますが、この規模拡大は勿論大会の発展ではありますが、と同時に大会の分化も起こって来ると考えられます。

① 全日本大会方式は隔年とし、間に東日本・西日本大会とブロック大会を入れて実施する。

(i) 東・西日本大会を開催する場合に、東日本、西日本の東西の境界をどこ

で引くか?を考慮しなければならない。

- (a) 東日本 北海道 東北 北信越 関東の4地方
- (b) 西日本 九州 中・四国 近畿の3地方

以上のように東西を分ける。東海地方について本来は西日本に所属するが、参加チーム数の少ない方に所属するように調整する。

(ii) ブロック大会

単独ブロックで大会を開催することも良いし、隣接するブロックが合同で開催する事も良い。

何故全国大会を2分割あるいは8分割して開催する必要があるかと申しますと、一言でいえば2つの負担を軽減しなければならないからです。

1つは大会規模が拡大しますと、全国大会を開催する為の条件である5面、あるいはそれ以上のコート近接する地域に用意しなければなりません。特定の地域を除いて1つの地域で、これだけの数のコートを確保することは大変難しいこととなります。地域分割方式を採用しますと、いくつかの地域に分担されることによって1つの地域への負担を軽減する事ができ、全国の多くの地域で開催することが可能となります。

もう1つは全国大会に参加するには経済的負担が大きく、そのため毎年出場したくても出場することを厳しく思っているチームが少なからずあるということです。中にはマスターズ大会に参加した次の月から、来年の大会に向けて毎月預金をしているチームもあると聞いております。地域分割方式、特にブロック大会方式は交通費が半減するだけでなく宿泊日数を減す、或は日帰り大会を計画する事が出来ますので、経済的負担をかなり軽減することができます。

将来の大会規模拡大を見据えた上で、地域分割方式が2つの負担を軽減するために必要であると述べて参りましたが、実はブロック大会の開催につきましては実施を検討する時期を迎えていると思います。と申しますのは全国8ブロックで開催されるブロック大会は、これからのマスターズ大会のしっかりとした根幹を築き上げるために是非とも必要となります。ブロック大会を開催する為には、その大会を主管するブロック協会を充実させなければ実現することはできません。そしてブロック協会の組織を充実させるためには、ブロックを構成している都府県協会の相互協力があればこそと考えます。

この相互協力について、2つの協力の仕方を考えてみました。1つはブロック協会の役員組織を充実させる為の協力であります。もう1つは都道府県協会内の中学校、高校、高専、大学、実業団などの各連盟のOB・OGをまとめあげ、社会人連盟(あるいはクラブ連盟)を組織化することです。更に思考を進めてゆきますと、現存する市区町村協会の組織

を充実させると同時に、一方で新しい市区町村協会の設立を目指すには、多くの方のご支援、ご意見が不可欠であり、ご理解を戴ければ強大な力となり得るということです。

この相互協力によって、ブロック協会、市区町村協会、社会人連盟の組織化が成功する事で、マスターズ大会の根幹を築き上げることが出来ると考えておりますが、実はこれらの組織の充実は日本のハンドボール界の強固な基盤づくりと更なる発展につながっています。しかもそれは他の競技団体、特にボールゲームの競技団体とこれから競争して行くためには何としてもまとめ上げる必要があると考えます。

② 交流型方式と順位決定型方式の分離独立開催

現在、交流型と順位決定型の参加状況を見ますと、交流型の方が上回っています。今後順位決定型方式が充実して、参加チームが増加するようになった時に、分離独立大会として実施する方向に進むであろうと思われれます。更に充実して、都道府県から万遍なく参加するようになった時には、(財)日本体育協会が推進している国体版マスターズ大会に参入して行くべきであるし、そうなって欲しいと思います。

交流型方式は、復活したばかりの 11 人制大会と合同で大会を開催して行くでしょう。しかしこの大会も 2 つの方向に分化して行くものと思われれます。1 つは今まで通りチーム参加を中心とし、個人参加も認めるチーム参加型大会と、もう一つは家族が揃って参加するファミリー型大会です。各人が年齢、性別、経験別に分かれてそれぞれが好みに合った会場に行き、その場でチームを作りハンドボールを楽しむ、この場合家族全員がハンドボール経験者である必要はなく、家族単位で参加し会場でチームを作る方式でそういう大会も夢ではないと思います。

又、交流型、順位決定型は 国際大会へと発展させて行きたい。まずは韓国、台湾、中国など極東アジア諸国との交流から始めて、徐々にその規模を拡大して行ければと思っています。しかし規模を広げることは、特に国際大会となりますと、運営資金が潤沢でなければ難しいでしょうから、スポンサーを複数獲得すること、或は冠大会として大会開催する必要があります。

エピソード その 10 大会開催方式についてのご意見

アンケート調査で大会の開催方式について質問したところ、これまで通り全国大会方式を望むと答えたチームが 39 チーム (42 回等あり) 中 36 チームと 85.7%を占めました。

その理由を見ますと『全国大会で知り合った人達と毎年会って一緒にプレーをしたい。』という理由が一番多く、次に多かったのが『学生時代の仲間に会いたい。』という理由でした。

又、参加チーム数の増加と年齢較差の広がりから、順位決定型と交流型の2方式を採用して大会を開催しておりますが、大会規模が更に拡大した時には両方式を分離開催することも選択肢の1つとして考えています。しかしアンケート調査の結果では、チームによって複数の回答がありましたので、計42回答中分離開催に賛成したのはわずか1チームで、多くのチームが試合数を減らしても、あるいは大会期間を延長してでも分離開催に反対するとの回答がありました。この一体感もマスターズ大会らしさを象徴しています。

3 マスターズ世代の組織化 — 図-2、図-3参照

1) 新しい登録制度の確立

平成13年度(2001年度)第9回全日本マスターズ大会から(財)日本ハンドボール協会が、全日本教職員ハンドボール連盟と共同で大会を主催することになりました。この年から日本協会のマスターズの部に登録する制度ができました。登録料はビーチハンドボールと同様に、チーム登録料1000円個人登録料100円のチーム構成人員分を協会に納入するというシステムです。このシステムはマスターズ大会参加時に参加チームだけが登録し、登録料を納入するという大変簡易な方法で、大会だけを開催するには利便性は高いが、その年の参加チームのみの登録ということで、マスターズ世代の全体を把握するには難があります。マスターズ世代を出来るだけ正確に把握し、更に進んで組織を作り上げて行く為には、登録制度を改革しなければならないと思います。しかしあまり格式張った制度にすると組織の運営が難しくなりますので、ある程度フェジーな制度である必要があります。例えばチーム登録だけは、マスターズ大会に参加、不参加にかかわらず年度始めに行ない、個人登録についてはこれまで通り大会参加時に行なう。

そうすれば全国レベルで、登録チーム数をかなり正確に把握する事が出来ると考えられます。しかし、これを軌道に乗せることが出来るかどうかは疑問であるし、もう一方からのアプローチの必要があると思われれます。

2) 全国規模での組織化が出来るか?

上記1)に記した登録制度を確立するためには、マスターズ世代を上手にまとめて組織化することが出来るかどうかにかかっております。以下2項目に亘って検討してみましよう。

① 都道府県協会に専任の理事を、できるならば常任理事を置く事が必要です。名称は現在都道府県に置かれている社会人代表でもよろしいですし、マスターズ専任でも良いと思います。更に上部組織である全国8ブロック協会内にも専任理事を置き、又下部組織としての市区町村の協会にも専任理事を配置します。彼等の役割は②の項目で記載した

いと思います。

② 都道府県協会内及び市区町村内の各中学、高校、高専、大学、実業団と所属団体の OB・OG チームの状況を把握し、社会人連盟、或はクラブ連盟として組織を作っていく事が重要な役割となるでしょう。愛知県や東京都ではかなりまとまりのある組織が作られています。このように良い例が在るのですから、是非交流の場を持ち、全国規模でマスターズの組織化を実現してもらいたいと思います。

4 マスターズ世代の日本のハンドボール界への貢献

1) 底辺拡大の為の貢献

(財)日本ハンドボール協会では公認指導員を育成し、いろいろなレベルのチームの普及と強化を進めておりますが、マスターズ大会の参加者にアンケートをとったところ、公認指導員の資格を取得されている方は、412 人の参加者のうち 49 名でした。又近い将来資格取得を希望しているかどうか質問したところ、34 名が希望しているとの答えでした。取得者と希望者の両方を合わせても 83 名と、参加者の 20%に満たない訳ですが、マスターズ大会の参加者は長いキャリアと情熱をお持ちの方ばかりですから、培ったその豊かな経験を、自から生かさないことには宝の持ち腐りと言っても良いでしょう。経験の無い子供達と一緒にプレーを楽しみながら、老練な指導力を発揮しチーム作りをして頂けたら、日本のハンドボール界にマスターズ世代ならではの貢献をすることになり、底辺拡大と言う目的を達成することができるのです。

そこで、短期間の講習でしかも比較的容易に修得できる、小学生を指導対象とした J 級指導員コーチの資格を取得して頂き、日本のハンドボール界の底辺となる小学生のチーム作りに積極的に参加して頂いたらどうでしょう。そして、マスターズ世代の組織が充実し、機動性を発揮できるようになってきたならば仲間とキャラバンを組み、近隣の小学校を巡回して小学生のハンドボールに対する興味付けを計るとともに、教職員をも指導対象とする事によってチーム作りだけでなく指導者養成をも狙う。言わば小学校を丸ごとハンドボール漬けにするくらいに動機付けることは出来ないだろうか。以上のような活動を通して、ハンドボールが小学校の体育教材としていかに優れているかを理解してもらい、更に教職員の仲間同士がチームを作り、マスターズ大会の参加へと繋がってゆけたら素晴らしい底辺の拡大が見えて来ると考えています。

2) ハンドボール界への周辺からの応援

(財)日本ハンドボール協会は支援会員の 10 万人達成を目指して“頑張れハンドボール 10 万人会”キャンペーンを推進しておりますが、これも前記しましたアンケート調査に

よりますと、10万人会キャンペーンについては、50%以上の21チームが良く知っている
と答え、ある程度知っていると答えたチームも加えると35チーム(89%以上)になる一
方入会されている方は412名以上の参加者のうち、わずか12.4%の51名でした。

大会参加者の中には、都道府県協会や各種連盟の役員等に所属している方や、チームの
役員や選手として登録されている方など、様々な形で(財)日本協会に協力して下さって
おりますが、現段階では全く関わりを持っていない方がかなりのパーセンテージを占めて
おります。

この方達に何とか10万人会に入会して頂き、ハンドボール界発展への一翼を担って頂
けたらと考えております。しかし、そうは申しましてもお金のかかる事ですから、出来る
だけ負担をかけずに皆さんに入会して頂けるよう配慮して、周辺からハンドボール界を
back upできればと思います。

最後になりましたが、全日本ハンドボールマスターズ大会も多くのハンドボーラーのご
協力を頂き、第12回大会を成功裡に終える事が出来ました。干支で申しますと丁度一回
りしたことになると思います。この大会がマスターズ世代の人達に楽しく、そして懐かしいハン
ドボールの場を提供することは、これからも引き続き重要な役割となりますが、その一方
で、我々マスターズ世代としてもハンドボールの活動の場を少し広げて、独自の貢献をす
る必要があるのではないのでしょうか。

我々の力がたとえ微力であっても日本のハンドボール界を応援し、日本が再びアジアの
リーダーとなって、オリンピックやWorld cupで活躍する日を迎えることができればどん
なに素晴らしいことでしょう。

表-1

これまでの参加チーム並びに開催地一覧

男子

列1	第1回大会～13回	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回
	開催年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
	開催県	愛知県	愛知県	愛知県	愛知県	愛知県	愛知県	山口県	愛媛県	愛知県	愛知県	宮崎県	岩手県	大阪府
	開催都市	豊田市	豊田市	豊田市	豊田市	名古屋	豊田市	下関市	松山市	豊田市	豊田市	宮崎市	盛岡市	大阪市
1	ATF	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
2	兵庫県選抜	☆		☆		☆	☆		☆	☆	☆	☆	☆	
3	オールド愛媛					☆	☆	☆	☆	G☆S	☆	☆	☆	
4	知多クラブ			☆		☆	☆			☆	☆			
5	埼玉46G会				☆	☆	☆			☆	☆		☆	
6	生駒オークス						☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	
7	愛知コモンズ				☆		☆			☆	☆			
8	神楽坂フェニックス						☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	
9	下関嵐波会						☆	☆	☆	☆				
10	下松クラブアダルツ							☆	☆	☆	☆	☆		
11	埼玉フェニックス	☆		☆						☆			☆	
12	名城オールスターズ						☆			☆	☆			
13	東山クラブ								☆	☆	☆			
14	岡山クラブ							☆	☆					
15	三景									☆	☆	☆	☆	
16	LBCアルパトロス									☆	☆	☆	☆	
17	葵クラブ									☆	☆	☆	☆	
18	櫻ドル									☆	☆	☆	☆	
19	豊橋マスターズ									☆	☆			
20	紫風会									☆	☆			
21	サンフレ広島	☆												
22	全教三重	☆												
23	山口教員							☆						
24	新居浜クラブ								☆					
25	ガンバ花クラ									☆				
26	沖縄三六会									☆				
27	WAKUNAGA										☆	☆	☆	
28	オールドフェイス										☆	☆	☆	
29	徳山クラブ										☆	☆	☆	
30	岩手教員										☆			
31	海自桜錦会											☆	☆	
32	久留米高年礼クラブ											☆		
33	福岡クラブ											☆		
34	はぐれクラブ											☆		
35	熊本オールスターズ											☆		
36	小林クラブ											☆		
37	宮崎フェニックス											☆		
38	泉丘会ドリーム											☆	☆	
39	泉丘会ヤンガーズ											☆		
40	北郷クラブ											☆		
41	日南クラブ											☆		
42	白亜Hot JAJA												☆	
43	岩手フェザント												☆	
44	岩手フェザントJy												☆	
45	東京クラブ連盟												☆	
46	新庄クラブ												☆	
47	盛岡FUWAKU												☆	
48	盛岡商友会												☆	
49	花巻桜雲会												☆	
50	湯沢クラブ												☆	
51	七の戸ユニオン												☆	
52	青森選抜												☆	

女子

1	中部ドリームス	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
2	瀬戸内レディース	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
3	モッピークラブ	☆	☆		☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
4	武蔵野クラブ		☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
5	東花レディース	☆		☆	☆		☆							
6	マミーズ							☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
7	ギャロップレディース						☆			☆	☆			☆
8	鳳見鶏ファミリー								☆	☆	☆	☆	☆	
9	甲斐クラブ								☆	☆	☆	☆		
10	スマイルGifu									☆	☆			
11	スズッキーズ									☆	☆	☆	☆	
12	ビタミンAichi									☆	☆			
13	1997飛馬太クラブ					☆								
14	山口クラブ							☆						
15	新居浜42								☆					
16	b'sリターンズ										☆			
17	FCC											☆	☆	
18	ぼっけもん											☆		
19	熊本OGクラブ											☆		
20	みやぎきコスモス											☆		
21	松村ファミリー											☆		
22	ドリーム55												☆	
23	Fenice(フェニーチェ)												☆	
24	シモンズ												☆	

表-2

チーム数、参加選手数、及び年齢に関する一覧表

	方式	性別	チーム数	参加人数	合計年齢	平均年齢	最高年連	最低年齢
第1回		男子	5	68	2963	43.6	52	39
		女子	4	52	2049	39.4	50	30
		計	9	120	5012	平均 41.7		
第2回		男子	1	16	749	46.8	52	41
		女子	4	55	2159	39.3	50	27
		計	5	71	2908	平均 41.0		
第3回		男子	4	44	1981	45.0	54	38
		女子	4	50	1997	39.9	50	28
		計	8	94	3978	平均 42.3		
第4回		男子	3	36	1662	46.2	54	39
		女子	5	60	2462	41.0	52	25
		計	8	96	4124	平均 43.0		
第5回		男子	5	63	2822	44.8	56	35
		女子	5	66	2876	43.6	53	30
		計	10	129	5698	平均 44.2		
第6回		男子	10	128	5750	44.9	57	38
		女子	6	70	2948	44.1	54	30
		計	16	198	8698	平均 43.9		
第7回		男子	8	97	4316	44.5	58	36
		女子	6	64	2602	40.7	54	32
		計	14	161	6918	平均 43.0		
第8回		男子	10	140	6219	44.4	59	38
		女子	8	99	4090	41.3	56	28
		計	18	239	10309	平均 43.1		
第9回		男子	21	273	12360	45.3	69	38
		女子	11	123	5072	41.2	58	28
		計	32	396	17432	平均 44		
第10回	交流型	男子	10	128	6755	48.3	69	41
	順位決定型	男子	11	140	5978	46.7	61	41
	計	21	268	12733	47.5			
	交流型	女子	6	65	2868	44.5	57	35
	順位決定型	女子	6	60	2411	40.6	53	35
	計	12	33	125	393	5279	18012	42.2
第11回	交流型	男子	14	163	7900	48.5	70	40
	順位決定型	男子	8	102	4832	47.4	62	41
	計	22	265	12732	48			
	交流型	女子	8	92	4092	44.5	60	35
	順位決定型	女子	5	49	1988	40.6	54	35
	計	13	35	141	406	6080	18812	43.1
第12回	交流型	男子	18	193	9470	49.1	71	40
	順位決定型	男子	9	105	4823	45.9	59	40
	計	27	298	14293	48.0			
	交流型	女子	6	63	2808	44.6	61	35
	順位決定型	女子	6	60	2391	39.9	50	35
	計	12	39	123	421	5199	19492	42.3
合 計			227	2724	121393	44.6	71	

大会運営の実際 表-3

		① 現行方式		② ハッピーマンデー方式の A		③ ハッピーマンデー方式の B		④ ハッピーマンデー方式の C					
金	午前	大会準備		大会準備 (11人制大会)		大会準備		大会準備					
	午後	(11人制大会)				(11人制大会)		(11人制大会)					
	夜	開会式				開会式		開会式		開会式		開会式	
		運営委員会				運営委員会		運営委員会		運営委員会		運営委員会	
ゲーム時間	(a) 15分-5分-15分	(b) 10分-5分-10分	(a) 15分-5分-15分	(b) 10分-5分-10分	(a) 15分-5分-15分	(b) 10分-5分-10分	(a) 15分-5分-15分		(b) 10分-5分-10分				
ゲーム方式							順位決定型	交流会型	順位決定型	交流会型			
土	午前	11ゲーム*5	15ゲーム*5	開会式 運営委員会	親子の ふれあいタイム	11ゲーム*5	15ゲーム*5	5ゲーム*5 25ゲーム	開会式 運営委員会	親子の イベント	6ゲーム*5 30ゲーム	開会式 運営委員会	親子の イベント
	午後	55ゲーム	75ゲーム	9ゲーム*5	12ゲーム*5	55ゲーム	75ゲーム	6ゲーム*3(2) 18(12)ゲーム	6ゲーム*2(3) 12(18)ゲーム	9ゲーム*3(2) 27(18)ゲーム	9ゲーム*2(3) 18(27)ゲーム		
	夜	懇親会		45ゲーム	60ゲーム	(懇親会、11人制)		懇親会					
日	午前	5ゲーム*5 25ゲーム	6ゲーム*5 30ゲーム	11ゲーム*5	14ゲーム*5	11ゲーム*5	15ゲーム*5	5ゲーム*3(2) 15(10)ゲーム	5ゲーム*2(3) 10(15)ゲーム	6ゲーム*3(2) 18(12)ゲーム	6ゲーム*2(3) 12(18)ゲーム		
	午後	閉会式 (11人制大会)		55ゲーム	70ゲーム	55ゲーム	75ゲーム	閉会式	6ゲーム*5 30ゲーム	閉会式	9ゲーム*5 45ゲーム		
	夜			懇親会		(懇親会、11人制)		(11人制大会)					
月	午前			4ゲーム*5 20ゲーム	5ゲーム*5 25ゲーム	4ゲーム*5 20ゲーム	5ゲーム*5 25ゲーム			5ゲーム*5 25ゲーム			6ゲーム*5 30ゲーム
	午後			閉会式 (11人制大会)		閉会式 (11人制大会)				閉会式			閉会式
総ゲーム数	80ゲーム	105ゲーム	120ゲーム	155ゲーム	130ゲーム	175ゲーム	58 (47) ゲーム	77(88)	75(60)	105(120)			
	$\frac{80 \times 2}{4}$ ゲーム	$\frac{105 \times 2}{4}$ ゲーム	$\frac{120 \times 2}{4}$ ゲーム	$\frac{155 \times 2}{4}$ ゲーム	$\frac{130 \times 2}{4}$ ゲーム	$\frac{175 \times 2}{4}$ ゲーム	$\frac{58(47) \times 2}{4}$ ゲーム	$\frac{77(88) \times 2}{4}$ ゲーム	$\frac{75(60) \times 2}{4}$ ゲーム	$\frac{105(120) \times 2}{4}$ ゲーム			
参加可能 チーム数	35 チーム	45 チーム	60 チーム	77 チーム	60 チーム	80 チーム	25チーム (20)	30チーム (40)	32チーム (25)	45チーム (55)			

34

表4-1-1(1)

ブロック別参加チーム

				出場回数				出場回数	
1	北海道	これまでチームとしてはゼロであるが、第11回個人参加が見られ始めた。							
2	東北	岩手	a	ガンバ花クラ	2回	秋田	l	湯沢クラブ	1回
	男子12チーム	岩手	b	岩手教員	1回	青森	j	七戸ユニオン	1回
	女子3チーム	岩手	c	白亜HOT JAJA	1回	青森	k	青森選抜	1回
	計 15チーム	岩手	d	岩手フェザント	1回	山形	l	新庄クラブ	1回
		岩手	e	フェザントJr	1回	岩手	m	ギャロップレディズ	4回
		岩手	f	盛岡FUWAKU	1回	岩手	n	ドリーム55	1回
		岩手	g	盛岡商友会	1回	岩手	o	シモンズ	1回
		岩手	h	花巻桜雲会	1回				
3	北、信越	これまでチームとしてはゼロであるが、平成19年第15回大会を富山県で開催されるのでこれを契機に多数のチームの参加が見込まれる。							
4	関東	埼玉	a	埼玉46G会	6回	東京	g	オールドフェイス	3回
	男子9チーム	埼玉	b	埼玉フェニックス	4回	山梨	h	紫風会	2回
	女子3チーム	東京	c	神楽坂フェニックス	7回	東京	i	東京クラブ	1回
	計 12チーム	東京	d	三 景	4回	東京	j	武蔵野クラブ	11回
		東京	e	櫻ドール	3回	東京	k	東花レディズ	4回
		東京	f	LBCアルパトロス	4回	埼玉	l	スズッキーズ	4回
5	東 海	愛知	a	A・T・F	12回	愛知	g	中部ドリームズ	12回
	女子5チーム	愛知	b	知多クラブ	5回	岐阜	h	スマイルGifu	2回
	計12チーム	愛知	c	愛知コモンズ	4回	愛知	i	ビタミンAichi	2回
		愛知	d	名城オールスターズ	3回	愛知	j	B'sリターン	1回
		愛知	e	豊橋マスターズ	2回	愛知	k	Fenice (フェニーチェ)	1回
		三重	f	三重教員	1回				
6	近畿	兵庫	a	兵庫県選抜	9回	大阪	f	モッピークラブ	11回
	女子2チーム	奈良	b	生駒オックス	7回	兵庫	g	風見鶏ファミリー	5回
	計 7チーム	京都	c	東山クラブ	4回				
		京都	d	葵クラブ	4回				
		大阪	e	WAKUNAGA	3回				
7	中・四国	愛媛	a	オールド愛媛G	8回	山口	g	山口教員	1回
	女子3チーム	愛媛	b	オールド愛媛S	1回	愛媛	h	新居浜クラブ	1回
	計12チーム	山口	c	下関巖流会	4回	山口	i	徳山クラブ	3回
		山口	d	下松クラブアダルツ	5回	広愛	j	瀬戸内レディーズ	12回
		岡山	e	岡山クラブ	2回	山口	k	山口クラブ	1回
		広島	f	サンフレ広島	1回	愛媛	l	新居浜42	1回
8	九州	沖縄	a	36G会	1回	宮崎	k	日南クラブ	1回
	女子8チーム	福岡	b	久留米高牟礼クラブ	1回	鹿児島	l	海自桜鑑会	2回
	計 20チーム	福岡	c	福岡クラブ	1回	沖縄	m	マミーズ	6回
		佐賀	d	はがくれクラブ	1回	佐賀	n	甲斐クラブ	4回
		熊本	e	熊本オールスターズ	1回	熊本	o	1997飛勇太クラブ	1回
		宮崎	f	小林クラブ	1回	福岡	p	F C C	2回
		宮崎	g	宮崎フェニックス	1回	鹿児島	q	ぼっけもん	1回
		宮崎	h	泉丘会ドリーム	2回	熊本	r	熊本OGクラブ	1回
		宮崎	i	泉丘会ヤングーズ	1回	宮崎	s	みやざきコスモス	1回
		宮崎	j	北郷クラブ	1回	宮崎	t	松村ファミリー	1回

表一 4- (2)

全国ブロック別参加チーム数

東北・北海道

	男子	女子	計
北海道	0	0	0
岩手	8	3	11
青森	2	0	2
秋田	1	0	1
山形	1	0	1
宮城	0	0	0
福島	0	0	0
計	12	3	15

関東

	男子	女子	計
埼玉	2	1	3
東京	6	2	8
神奈川	0	0	0
山梨	1	0	1
茨城	0	0	0
栃木	0	0	0
群馬	0	0	0
千葉	0	0	0
計	9	3	12

東海

	男子	女子	計
愛知	5	4	9
三重	1	0	1
静岡	0	0	0
岐阜	0	1	1
計	6	5	11

北信越

	男子	女子	計
新潟	0	0	0
富山	0	0	0
石川	0	0	0
福井	0	0	0
計	0	0	0

関西

	男子	女子	計
兵庫	1	1	2
奈良	1	0	1
京都	2	0	2
大阪	1	1	2
滋賀	0	0	0
和歌山	0	0	0
計	5	2	7

中・四国

	男子	女子	計
岡山	1	0	1
広島	1	1	2
山口	3	1	4
鳥取	0	0	0
島根	0	0	0
愛媛	3	1	4
香川	0	0	0
高知	0	0	0
徳島	0	0	0
計	8	3	11

九州

	男子	女子	計
沖縄	1	1	2
福岡	2	1	3
佐賀	1	1	2
熊本	1	2	3
宮崎	6	2	8
鹿児島	1	1	2
大分	0	0	0
計	12	8	20

図-1

マスターズ大会の発展と分化

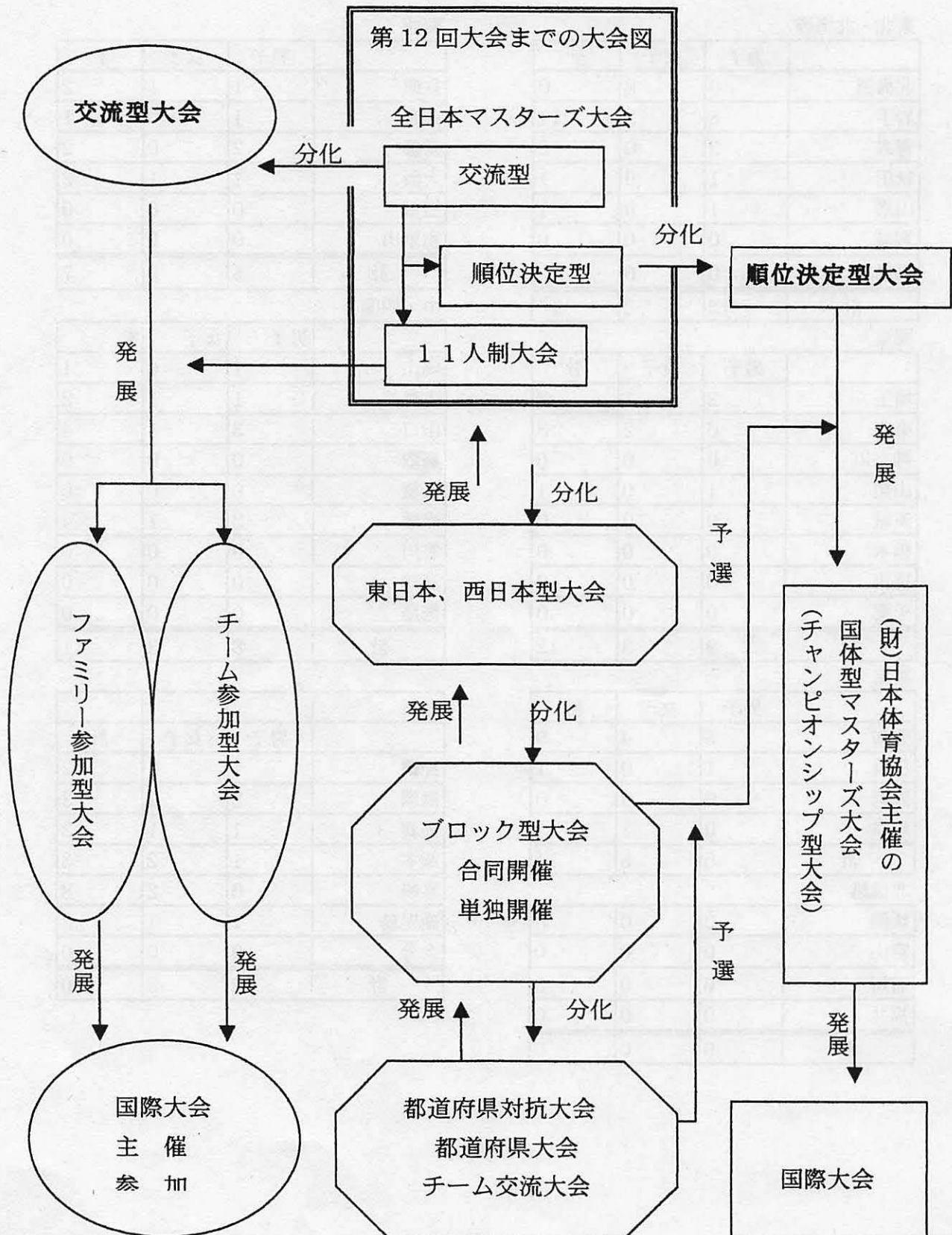


図-2

マスターズ大会の組織

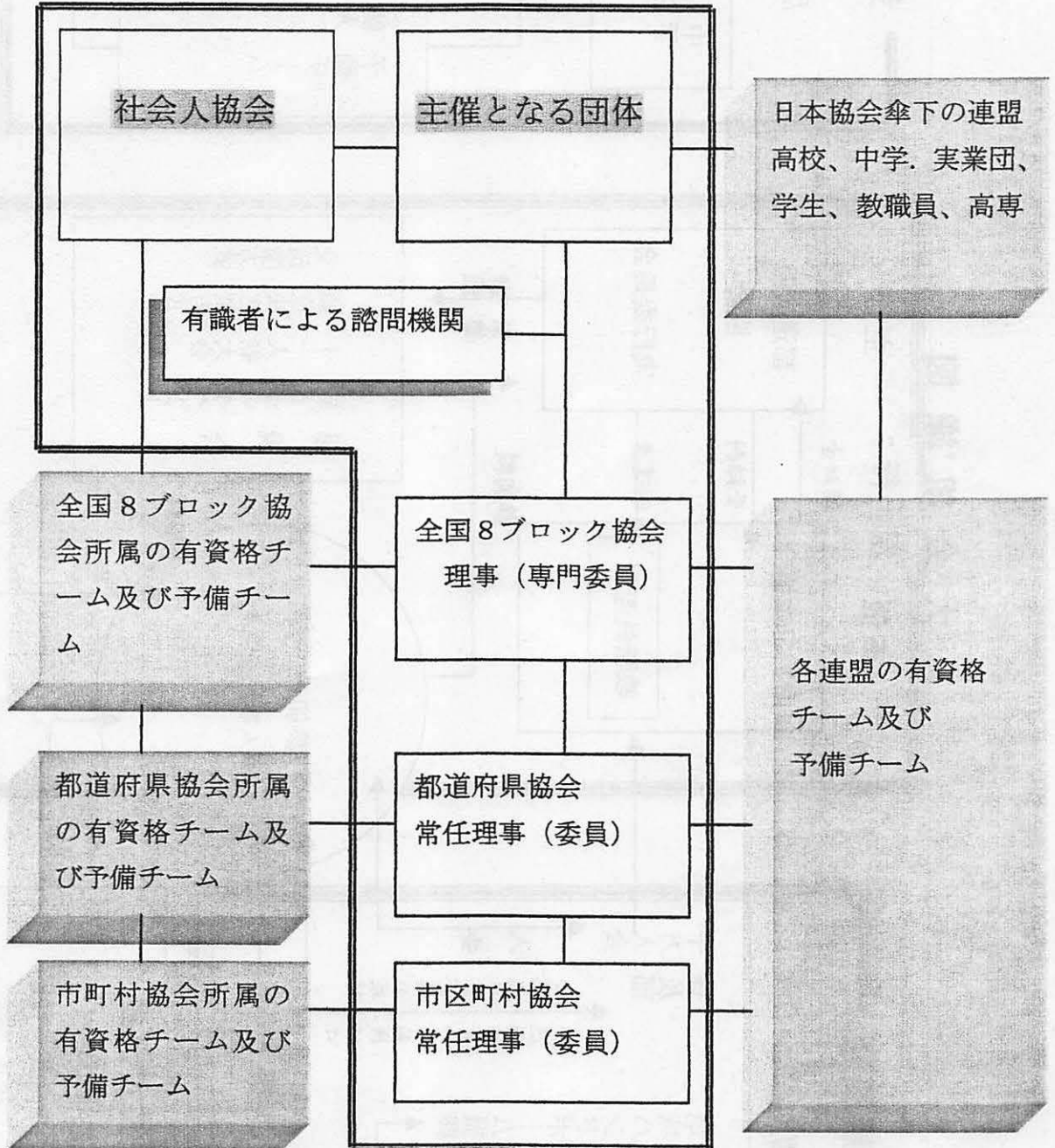
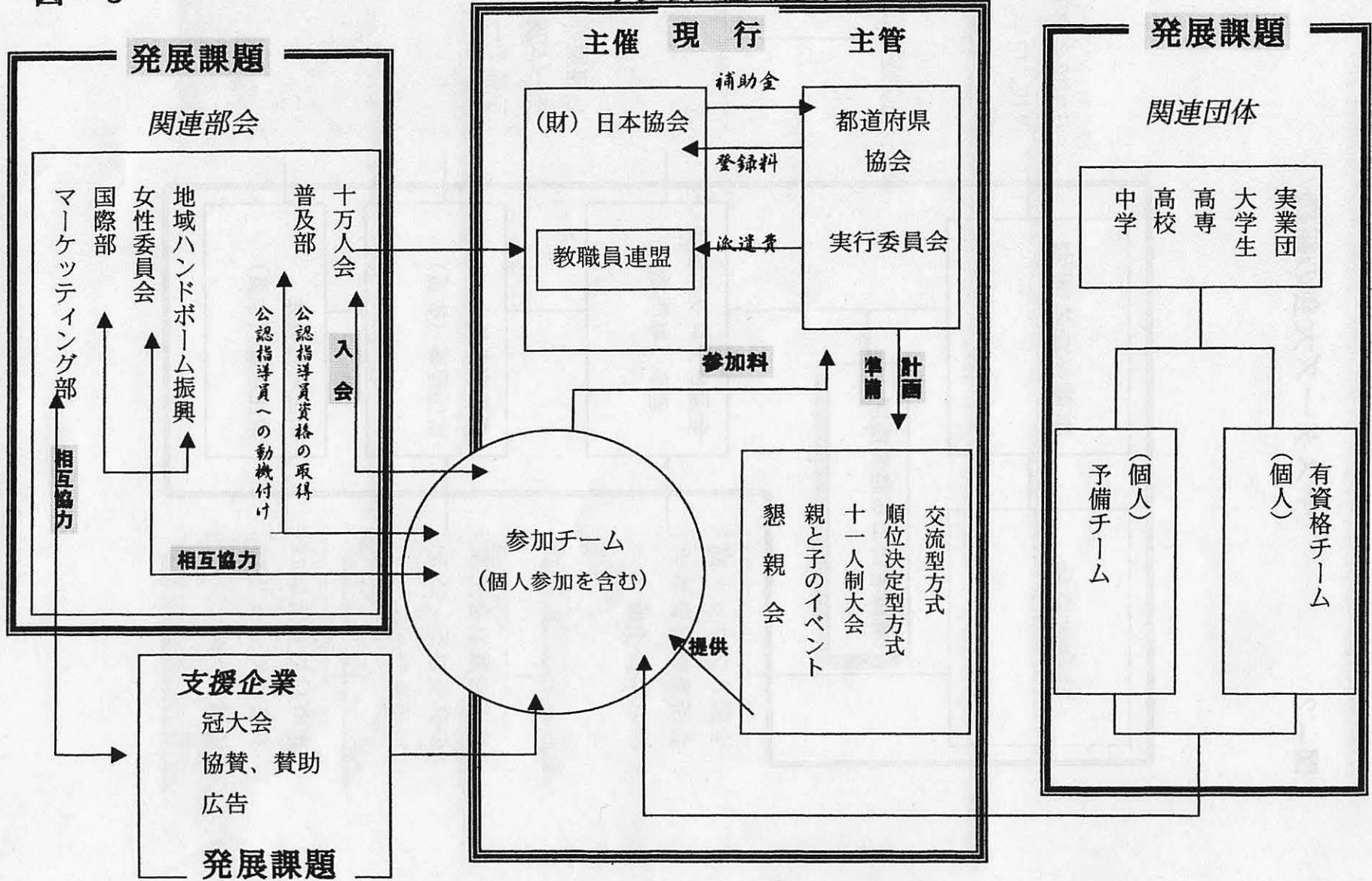


図-3

大会組織図



39

あとがき

岩手県花巻市で開催されました平成 16 年度第 12 回マスターズ大会は、7 人制の部 39 チーム、11 人制の部 2 チームと、合計が過去最多の 41 チーム参加という盛況の中、無事終了致しました。

この大会が開催される一か月程前の 6 月中旬に、(財)日本ハンドボール協会専務理事の大西武三氏と名古屋でお会いする機会がございました。その時に大西氏からマスターズ大会に関する二つの案件について実現するように相談を受けました。1 件はマスターズの部のホームページを開設して欲しいということ、もう 1 件はマスターズ大会の冊子作りをして欲しいというもので、このどちらもマスターズ大会を普及させるためには欠くことの出来ない案件でした。その時は”まっ、いつかはやらなければならないかな”ぐらいにしただけで考えておりませんでした。花巻大会が成功裡に閉幕し、豊田市に帰宅した直後に先の大西氏の提案がふっと思い出されました。この大会が回を重ねる毎に参加チームも増加し発展して行くことを考えると、この盛況ぶりとともに 12 回開催された大会のうち、8 つの大会を愛知県が開催して来たという自負と責任とが私自身の心の中に交錯したのでしょうか、大西氏の二つの案件を、今こそ実現すべき時期であるという思いが沸々とわき上がって来たのです。そこで冊子作りには先立ちまして、まずは記録誌を作成し、その完成後に記録誌を資料として冊子作りを進めて行こうと決めました。ここに拙い文章ながらも記録誌が完成し発刊するに至りました。今後は出来るだけ早い時期にハンドボーラーに訴えるように、又一般の方々には興味を持っていただけるような PR 誌を作成していこうと新たな決心をしたところでございます。

又、マスターズの部のホームページの開設に関しましても、開設すること自体容易なことではないうえに、HP を維持、継続していくことは更に困難な事であります。しかしその重要性については良く認識しているつもりです。今年度中には是非実現を目指し努力しようと思っております。

今後とも多くの方々のご協力を賜りまして、大会の普及発展に邁進してまいりたいと思います。ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。ありがとうございました。

アンケート調査の結果報告

付録資料-1

このアンケート調査は平成 16 年度第 12 回全日本ハンドボールマスターズ花巻大会の開催の折、開会式に先立って行なわれました競技運営委員会で参加全チームに配布しました。そして大会最終日に当たる7月25日(日)に回収致しました。

尚、今回はアンケート調査の結果のみを掲載しました。又、ページ数の関係で一部貴重なご意見につきまして割愛させて頂きました。ご了承下さい。

1、参加資格について 表 -1

	チーム数	
現行のままで良い	34	87.2%
改善の余地あり	1	2.6%
無回答	4	10.3%

意見

- ・ 毎年参加したいが若い選手の積み上げが難しい。
- ・ 将来的には 40 代、50 代、60 代などクラス分けが必要である。
- ・ 60 歳以上の選手が危険なく出場できる仕組みの工夫をして欲しい。

2、試合方式について

1) 交流型と順位決定型の2方式について

表 -2

	チーム数	
①このままで良い	37	94.9%
②改善の余地あり	2	5.1%
③無回答	0	0.0%

- ・ 交流型方式だけで良い。
- ・ 試合数はチーム事情やチームの希望を配慮して欲しい。
- ・ 10分ハーフにしても前後半方式にした方が良い。
- ・ 交流型の趣旨を理解していないチームがある。
- ・ 年齢差で若い方のチームにも戸惑いがある。

2) 11人制ハンドボールの復活について (複数回答あり) 表 -3

	チーム数	
①復活に賛成	28	70.0%
②7人制だけで良い	10	25.0%
③その他	1	2.5%
④無回答	1	2.5%

- ・ 伝統スポーツの継承として重要である。
- ・ 時間がゆるせば参加したい。
- ・ マスターズの魅力は幅の広さと適応力であり是非参加したい。

3) 復活賛成チームの次年度の参加について (複数回答あり)

表-4

	チーム数		
①11人制世代と交流したい	7	24.1%	65.5%
②レクスポーツとして参加したい	12	41.4%	
③当面は参加しない	7	24.1%	
④無回答	3	10.3%	

4) 試合数と試合時間について 表 -5
(複数回答あり)

附録資料-2

	チーム数	
①大会本部に一任する	25	59.5%
②交流型と順位決定型を分離開催する	1	2.4%
③大会期間を考慮し、現行で実施	13	31.0%
④その他	3	7.1%

意見

- ・分離開催は絶対に反対する。
- ・交流型方式の試合数を減らして現行通りが良い。
- ・何にしても開催地の負担を少なくすべきである。
- ・参加したのだから出来るだけいろいろなチームと対戦したい。

5) 審判帯同制など競技運営方式について 表 -6

	チーム数	
①自主独立型大会を目指すべきだ	28	71.8%
②ゲーム以外出来るだけ負担を少なくして欲しい	10	25.6%
③その他	1	2.6%

- ・ぎりぎりの人数で参加しているので担を少なくして欲しい。
- ・自主独立大会は良いが、審判などのレベルが低い。
- ・大人が『やりたい』と思って参加しているのだから自主独立型を目指すのは当然である。

3、開催時期・開催方式

1) 開催時期 表 -7

	チーム数	
①これまで通り	30	76.9%
②ハッピーマンデー	4	10.3%
③その他	4	10.3%
④無回答	1	2.6%

- ・他の大会と重ならないように開催して欲しい。
- ・夏休みでなく秋のハッピーマンデーを希望する。
- ・8月中旬～初旬の金、土、日で開催することを希望する。
- ・夏休み前を希望する。

2) 開催方式 (複数回答あり) 表 -8

	チーム数	
①毎年全国大会	36	85.7%
②東・西日本,ブロック併用	5	11.9%
③その他	0	0.0%
④無回答	1	2.4%

- ・規模拡大で開催が大変であるが、意義ある大会なのでなんとか全国大会で継続して欲しい。
- ・東と西では片寄りがある。特に東は力不足である。
- ・全国大会で知りあった人達と毎年会ってプレーをしたい。
- ・学生時代の友人と会えるのが楽しみなので全国大会が良い。

4、親と子のふれあいタイム 表-9
(複数回答あり)

	チーム数	
①普及のため重要	32	69.6%
②不必要	0	0.0%
③傷害保険	3	6.5%
④幼児と児童などを分けて	1	2.2%
⑤他の大会でも実施	6	13.0%
⑥その他	4	8.7%

- ・離れている会場で大会を開催しているので見に行けない。
- ・運営上無理ならば実施しなくても良いが子供達の記念品は皆が楽しみにしている。
- ・ATFの若松さんいつもありがとう。
- ・自分達の子供が中学生、高校生は勿論大学生もおります。

5、懇親会 表-10

1) ご意見

	チーム数	
①現状で良い	26	66.7%
②わからない。無回答	13	33.3%

3) 内容についての希望

- ・各チームの紹介を発表してもらえると楽しいのではないだろうか。
- ・各地域の郷土芸能やチームのパフォーマンスも楽しいイベントである。
- ・懇談の時間を長くした方が良い。
- ・開催地にお任せで良いと思う。

2) 必要かどうか?

表 -11

	チーム数	
①楽しいので継続して欲しい	39	100%
②その他	0	

6、大会全般あるいは今後の在り方についてのご意見

- ・全国への広がりが夢のようです。
- ・今回の初参加のチームもとても良かったと言っていました。
- ・大会の準備は大変ですが、1年に1度の邂逅^{かいこう}であり、人々とのふれあいが最高の楽しみとなる大会です。今後とも宜しくお願ひします。
- ・規模が拡大して大会運営は大変ですが、参加者全員で知恵を出し合い可能な限り現状を維持して欲しい。
- ・大会運営ご苦労さまでした。天気にも恵まれ素晴らしい大会となりました。
- ・趣旨を良く理解していないチームがあり、残念です。
- ・年齢差が広がりますので、年齢別などの工夫が今後の課題です。
- ・会場の確保が難しいので、試合数を減らすか日程を延長するかが必要となる。
- ・生涯スポーツとして有難い企画です。感謝の念で一杯です。今後とも「いつまでもハンドボールを』『ハンドボールってオモシロイデー』という観点からハンドボールを推進しましょう。
- ・交通の便などを考えて、東海地区、特に愛知県を中心に開催したら参加し易いチームが多くなります。

7、マスターズ世代が日本のハンドボール界にどのように貢献できるか？
『頑張れハンドボール』10万人会の支援について

1) 10万人会について 表 -12

	チーム数	
①良く知っている	21	53.8%
②聞いた事はある	14	35.9%
③知らない	3	7.1%
④無回答	1	2.6%

2) 10万人会に何人登録されていますか？
表 -13

10万人会の登録者数	人数
男子登録者数	46名
女子登録者数	5名
計	51名

3) 10万人を積極的に応援したいが、ご意見を。

- ・参加資格を10万人会登録者にする
- ・良いことである。マスターズ大会中に申込デスクを設けてPRする。又会費を下げて入り易くする。
- ・関係者への負担が大きい。
- ・解り易くして欲しい。
- ・会費の支出内容を明確にして欲しい。
- ・懇談会などで宣伝をする。
- ・参加費の中に入れて会費を集める。
- ・ハンドボールを広げるためには良い。
- ・良いと思います。
- ・メディアと連携をとってハンドボールをPRするなど工夫する。
- ・無認識な方もおられるし、この大会が更新期とすれば続くでしょう。(ビール数本だと思えば協力出来る。)
- ・中央にいないため参加する気持ちが湧かない。
- ・10万人会自体が解らない。今年度加入人数、お金の使い道、登録した時の利点など説明が必要である。

(回答無し) 表 -14

	チーム数	
男子	16	59.3%
女子	4	33.3%
無回答の合計	20	39チーム中 51.3%

8、公認指導員資格取得について

1) J級指導員の資格について
(複数回答あり)

	チーム数	
① 知っている	19 (4)	47.5%
② 知らない	21 (7)	52.5%

() 内は女子チーム

2) 公認コーチの資格取得 表-16

	男性	女性	合計
① B級コーチ	7人	0人	7人
② C級コーチ	16人	0人	16人
③ C級指導員	7人	7人	14人
④ J級指導員	11人	1人	12人
計	41人	8人	49人

3) 資格取得希望者数

表 -17

	男性	女性	合計
① B級コーチ	3人	0人	3人
② C級コーチ	4人	2人	6人
③ C級指導員	10人	2人	12人
④ J級指導員	8人	5人	13人
計	25人	9人	34人

9、登録制度について

1) ご意見

表 -18

	チーム数	
(a)年度初め	2	5.1%
(b)参加申込時	33	84.6%
(c)その他	1	2.6%
(d)無回答	3	7.7%

2) 登録金について

表 -19

	チーム数	
(a)ビーチハンドと同様	30	76.9%
(b)リージョナブル	1	2.6%
(c)10万人会と連結	5	12.8%
(d)その他	1	2.6%
(e)無回答	2	5.1%

- ・(財)日本協会に登録される必要はない。
- ・お金の掛からない大会運営をして欲しい。遠征費だけでも高額になる。

表 -20

10、マスターズ世代の貢献

	チーム数	無回答率	
男性	15	55.6%	全体の51%
女性	5	41.7%	

- ・幅広い視野のもとで、良い人材を育て、選出して頂きたい。
- ・派閥やいろいろなしがらみにとらわれずオープンに選手を選抜出来る体制であれば良い。監督が決まったらそのやり方に一任する。もっとオープンにし、納得する監督であればいい。
- ・試合の応援に行きたいが、会場が遠いので観に行けない。
- ・資金面、人材面にもっとお金を賭けて、世界に通用するハンドボールを育てて欲しい。その為の協力は出来る限り行ないたい。
- ・小学生のハンドボールに対する教育をお願いします。
- ・もっともっとハンドボールの普及に努力し、国民にアピールすること。
- ・試合の観戦で応援したい。
- ・次世代の子供達にハンドボールの楽しみを見せ、体験し伝える。
- ・明確なビジョンとコンセプトを示し、現状を改善すること。
- ・予選を日本で開催し、応援などで、精神的バックアップをしたい。
- ・ハンドボールの楽しさを一般の人々に広めることに重点を置き、その為にも魅力的なプレーの開発をして欲しい。
- ・一貫した指導で、海外への留学などを増やし、強い全日本を見たい。

マスターズ大会 アンケート

チーム名

男・女

2004.7.23

今後のマスターズ大会を成功させる為に、又日本のハンドボール界を発展させるために、参加者の皆さんのご意見をいただきたいと思ひます。

1、＜参加資格について＞

現在の参加資格（年齢）についてご意見をください。

2、＜試合方式について＞

1) 交流型と順位決定型の2方式を実施しておりますが、この方式について該当する事項に○をつけて下さい。

① このままで良い。 ② 改善する余地がある。

2) 交流型と順位決定型についてご意見をお書き下さい。

2) 今大会より11人制を初めて復活させましたが、それについてご意見をお聞かせ下さい。（該当事項に○をつけて下さい。複数○可）

① マスターズ大会の一部として復活に賛成である。

② マスターズ大会は7人制だけの大会でよい

③ その他（ご意見）

- ①と答えた方
- a) 11人制世代の人達と交流したいので参加したい。
 - b) レクリエーションスポーツとして参加したい。
 - c) 当面は参加しない。

3) 第9回大会より参加チーム数が急増し、今後ますます増加することが予想されますが、現行の大会期間と設置コート数の制限（4～5面）のなかで試合数・試合時間をどのように設定したら良いか、ご意見をお聞かせください。

① 試合数・試合時間は、参加チーム・設置コート数により大会本部に一任する。

② 試合数・試合時間は、参加チームの希望に答えるために、順位型と交流型と分離開催してもよい。

③ 大会期間等を考慮しながら、現行通り実施して欲しい。

④ その他（ご意見）

4) 審判員帯同（含選手と審判員の兼任）、競技運営委員会方式について、該当事項に○をつけて下さい。

① マスターズ大会は自主独立型大会を目指しており、できるだけ参加チームがゲーム運営を分担し、実施する。

② 参加チームにはゲーム以外できるだけ負担を掛けない。

③ その他（ご意見）

3、＜開催時期、開催方式＞

第1回大会より、これまで毎年全国大会という方式で、7月の最終週の金、土、日を利用して開催してきましたが、開催時期及び方式についてのご意見をお聞かせ下さい。

1) 開催時期（該当事項に○をつけてください。）

① これまで通りで良い。

② ハッピーマンデーを利用し、場合によっては現行より大会期間を延長してもよい。

③ その他（希望開催時期を具体的に記載して下さい。）

2) 開催方式（該当事項に○をつけてください。）

① これまで通り、毎年全国大会方式で実施する。

② ブロック大会、西・東日本大会を併用する。

③ その他（ご意見）

4、＜親子ふれあいタイム＞ 該当事項に○をつけて下さい。（複数○可）

第2回大会より、ATFの若松義則さんのご協力により、“子供達が楽しむ”イベントを開催してきましたが、これまでと今後について、ご意見をお聞かせ下さい。

① 普及の為の重要なイベントであり、今後増々充実させて欲しい

② 時間制限のある中、不必要である。

③ 子供の傷害保険をかけて欲しい。

④ 幼児、児童などに分けて実施して欲しい。

⑤ この大会以外でも子供達のためのイベントをいろいろな大会で実施して欲しい。

⑥ その他（ご意見）

5、＜懇親会＞ についてご意見をお聞かせ下さい。

1) 会費、飲食内容などについてご意見を下さい。

2) 懇親会を必要とするか（該当事項に○をつけて下さい。）

① 楽しいイベントであり今後も継続して欲しい。

② 不要である。試合だけで良い。

③ その他（ご意見を）

3) イベント内容についてのご希望をお聞かせ下さい。

6、＜その他＞

大会全般について、或は今後の大会のあり方についてご意見をお聞かせ下さい。

8. 「頑張れハンドボール」10万人会 の支援について

(財)日本ハンドボール協会は支援会員の10万人達成を目指して、「がんばれハンドボール」10万人会(以下10万人会と略す)キャンペーンを推進しております。下記の問いにお答え下さい。

1) 10万人会についてご存じですか?

- ① よく知っている
- ② 聞いたことはあるが、内容は良く知らない。
- ③ 知らない

2) 貴チーム内で10万人会に何人登録されていますか?

_____人中 _____人

3) 全日本ハンドボールマスターズ大会は、10万人会のキャンペーンを積極的に応援していきたいと考えていますがご意見をお聞かせ下さい。

.....
.....

9. 公認の指導者資格の取得について

1) (財)日本ハンドボール協会では公認指導者を育成し、いろいろなレベルのチームの普及・強化を進めていますが、特に小学生を指導対象としたJ級指導員の資格制度がつけられたことをご存じですか?
(該当事項に○をつけて下さい。)

- ① 知っている
- ② 知らない

2) 現在、貴チーム内で公認コーチの資格を取得している人は何人おられますか。

_____人中 _____人

- ① B級コーチ _____人
- ② C級コーチ _____人
- ③ C級指導員 _____人
- ④ J級指導員コーチ _____人

3) 近い将来コーチの資格を取得したい、あるいは更に上級の資格を取得したいと考えている方は何人おられますか?

- ① B級コーチ _____人
- ② C級コーチ _____人
- ③ C級指導員 _____人
- ④ J級指導員コーチ _____人

10. 本大会は9回大会より、参加チームは(財)日本ハンドボール協会のマスターズの部に、チーム・個人とそれぞれ登録しておりますが、チームや個人への負担増にならない、より良い登録制度を模索しております。ご意見をお聞かせ下さい。

.....
.....
.....

11. アテネオリンピックも真近に迫り、日本選手の活躍に日本中が胸を膨らませている中、残念ながらチームゲーム7種目中男女とも出場を逃がした種目は、ハンドボールだけになってしまいました。2008年に開催される、アジアで第3回目の北京オリンピックには、何としても、男女どちらかでも出場してほしいという思いは、日本中のハンドボーラーの全員一致した思いであると考えます。

そこで、お伺いいたします。オリンピック出場の夢を実現させるために、我々マスターズ世代は(財)日本ハンドボール協会に対してどのような応援ができるのか、幅広いご意見をお聞かせ下さい。

.....
.....
.....

ご協力有難うございました。

富士大会会場は 小山まで、

総合体育館 は 中島まで、必ず提出ねがいます。

※7月25日(日)10時まで(競技運営委員が提出)

